ミュンヘンへの道

いよいよスウェーデンチームの来日が迫ってきた。来夏の金メダルの有力候補と伝えられているチームだけに、全日本がどのような戦いぶりを示すか興味深い、更に、北欧チームが来日するのは初めて。

東欧型、北欧型、西欧型という型がハンドボール界にあることは知られていよう。

スウェーデンチームの特色はスローペースで握ったチャンスは必ずものにし、速攻はあまりしかけずに、守備がきわめて固いという日本チームと対照的な特色をもっている。

これに対して、速攻を武器とする全日本がどのような戦いぶりを示すか。先般行なわれた選抜大会では、調整不足を見せ、あれが全日本かと関係者をなげかせた全日本がその汚名を挽回すべきチャンスである。全日本はこのオリンピック予選を前にした試練の場を最大限生かすべく、努力をしてほしい。

予選まであと二ケ月、願ってもないチャンスだけに、この場を最大限に利用しなければならない。

幸い、相手も従来の訪日チームに見られた物見遊山気分でなく、真剣なミュンヘン対策の一環として、来日するということである。

今度の親善試合を単に親善というような甘いものでなく、全日本はすべてに勝つことを目標において、スウェーデン戦を戦いぬいてほしい。

世界の上位に躍進するためには一つ一つの国に対する苦手意識をとり除いていかなければならないといわれている。

全日本も世界三位のユーゴに対しては、かなりの自信がもてるようになってきている。

これを機会に逆にスウェーデンに苦手意識をうえつけるぐらいの意気ごみで戦いぬいてほしい。

今回の対戦、各地で行なわれることは種々問題があろうが喜ばしいことではある。ハンドボールファンは、全日本を応援し、長い伝統に養なわれたスウェーデンの本当の意味での本場の7人制ハンドボールを十分に味わってほしいものだ。

全日本の勝ち作戦と北欧ハンドボール、これが何といっても、このシリーズの焦点となろう。これが〝ミュンヘンへの道〞を切りひらき、ミュンヘンでの好成績につながることになろう。

（藤本）

時評

本誌前号で三浦、斉藤両普及部委員のスポーツ少年団に関する報告を読んでがく然としたのは筆者だけではあるまい。

この分野に対する斯界の立ち遅れは耳にしないでもなかったが、ここまでみじめな状態とは思わなかった。

日本協会でも慌てて対策をこうじることになったらしいが、他競技の水準に追いつくのは相当の時日がかかろう。

首脳陣は中学校学習指導要領に復活されればある程度よい方向へ向かうとみているようだが「まったく無関係」というカゲの声もある。

日本協会のスポーツ少年団対策は4・5年前までは実に積極的で内外から注目をあびていたものだ。

〝ハンドボール少年団〞を手がけたのは昭和36・37年頃。41年4月には、夏休みに全国的なサマー・キャンプを新潟県柏崎市で開くと発表してセンセーションをよんだ。

当時としてはまさに画期的なプラン。成果が期待されたのだが、文部次官通達がからんで文部省筋から「待った」がかかり結局机上案に留められてしまった。それにもめげず8月、全国交歓会を横浜で開き、以後9月までにハンドボール少年団旗全国リレー頒布活動全国結成大会などと次々にくりひろげた。いずれも他分野では見られなかった活動だけに高い評価を得、ことスポーツ少年団にかけては斯界は一歩も二歩も先んじていたのである。それがなぜ停滞したか。

執行部の交替、オリンピック強化……。それに〝挙国体制〞の欠如という斯界の困った持病がある。

このことに限らず、斯界は継続的な事業意欲に乏しい。

誰が考えても1年間で大きな仕事がまとまるわけはないのだが、かといって2年計画、3年計画で実を結ばせようという努力もない。

今回のスポーツ（ハンドボール）少年団問題などはその〝悪い典型〞なのである。

前号の報告をキッカケにもういちど姿勢をたてなおすべきだろう。

名古屋の少年ハンドボール教室やNHK杯時にみた少年、少女ファンの増加など前途に明かるい材料もある。普及部だけの課題に終ることなく底辺拡張策をふくめて斯界の重点施策として復活されるよう声を大にしたい。

（X）

「ハンドボール」9月号（第90号）目次

【表紙写真】全日本高校選手権決勝戦・湯沢高由利選手のシュート（秋田魁新報社提供）

金メダル候補スウェーデンが来日

～9月4日から全国各地で7試合～

迎えうつ充実の全日本代表（オリンピック候補）

ミュンヘン・オリンピックの金メダル候補スウェーデンに挑む全日本――。初秋の国内スポーツ界の話題を一身に集める日本・スウエーデン国際親善ハンドボール大会は9月4日から18日まで全国6都市で7試合が行われる。

伝統を誇るスウェーデン・ナショナルチーム一行25名（役員9、選手16）は9月2日午前9時35分羽田着のソビエト航空機で来日するが、選手16名は同国オリンピック候補22選手のなかから選びぬかれた精鋭、本場ヨーロッパ球界のスタープレイヤーを網らしており平均身長一八六・五cm、同体重八三Kという大型。これまで日本を訪れた西ドイツ（昭31、11人制）、ルーマニア（昭35、11人制）、中国（昭41）の各ナショナルチーム、西ドイツ選抜（昭42）らをしのぐ史上最強布陣の来日といってよい。

日本・スウェーデン 国際試合日程（全7戦）

9月2日（木）9.35	来日	羽田空港	
4日（土）17.00	対全日本①	横浜文化体育館	
5日（日）15.00	対全日本②	山梨県体育館	
8日（水）18.00	対関東学生	東京体育館	
11日（土）18.30	対全日本③	大阪市立中央体育館	
12日（日）16.00	対本田技研	四日市公園体育館	
15日（祭）14.00	対全熊本	熊本市体育館	
18日（土）15.40	対全日本④	東京体育館	
	（NHK教育TV 15.30―17.00 全国中継）		
19日（日）12.50	帰国		

迎えうつ日本勢では、70日後にオリンピックアジア予選を控えた全日本が4試合を行うのがなんといっても注目される。

今年に入ってすでに4次にわたる強化練習を積んだ全日本はその目標をアジア予選からさらにミュンヘン・オリンピックでの上位入賞においており、世界最上位に君臨するスウェーデンとの対戦は球史を飾る熱戦が展開されよう。

このほか韓国遠征の主力を占めた気鋭の関東学生選抜、全日本実業団6位の本田技研鈴鹿、国体優勝をめざす全熊本もそれぞれこの一戦にかける斗志はすばらしいものがあり勝機は少いまでも地元の声援をうけて健斗が期待できる。

西ドイツ（31年来日）以上の力？

□……ハンドボール関係者の多くは、昭和31年9月に来日した西ドイツナショナルチーム（11人制）の強烈な印象が未だに消えさっていない。初練習のため駒沢ハンドボール場に姿を現した彼らは初秋の柔らかな陽ざしにあたるといきなりユニホームを脱いで上半身裸となりボールをわしずかみにしてすばらしいスピードのパス・アンドランを繰り返したものだ。もちろん試合で見せたスケールの大きな展開もこれぞハンドボールだと見る者をうならせた。

第2次大戦後日本を訪れたヨーロッパチームは今春のグンメルスバッハ（西ドイツ）まで男子4、女子1を数えるが、31年の西ドイツ以上に評判を得たチームは卒直のところないといってよいだろう

□……わざわざ昔ばなしを書いたのは、今回来日するスウェーデンはどうやら16年ぶりに西ドイツでうけた感銘を塗りかえてくれそうだからである。

なんといっても本場ヨーロッパでも〃金メダル候補〃〃上り板〃〃成長株〃と圧倒的な評価をうけていることに注目したい。

スウェーデン自身にもはっきりその〃意識〃があり、来夏のミュンヘンまで一試合たりともおろそかにしまいという姿勢を打ち出している。

今回の来日メンバーも5月末から7月末まで数回の合宿を重ねてミュンヘン・オリンピック候補22名のなかから16名を選びだしたものだ。しかも遠征に先だってハンブルグ（西ドイツ）、モスクワ（ソビエト）に立ち寄って調整しながら日本に向かって来るという情報もある。

ヨーロッパの花形揃える

□……来日メンバーはスウェーデンの、というよりも本場・ヨーロッパでも屈指のスタープレイヤーによって固められ世界第6位の原動力となった10選手の登場は脅威でさえある。

なかでもL・エリクソンは、昨春の大会後、報道関係者たちによって選ばれた「ベスト・メンバー（FP）」の一人であり、近年スウェーデン球界の生んだ最高の選手といわれている。一九六七年から連続3年間同国の最優秀選手の栄光を得ており、攻守兼備の名手。左サイドからの攻撃が得意、技巧的なプレーヤー。ホームクラブはナンバー・ワンチームの「ヘラス・ストックフォルム」。

B・アンデルソンも話題を集めよう。1m96、98Kという巨漢。世界選手権では7MT12点をふくむ20点をたたきだしている。一九六九年から今シーズンまで連続3年間スウェーデン・リーグ（注・10チームによる2回総当り）の得点王。21才という若さだ。力士なみの体軀から繰り出す豪快なシュートは圧巻だろう。新進「サーブリンキョッピングクラブ」所属。

□……ベテラン、M・コックのプレーも興味がある。日本選手なみの体格（1m75、77K）ながらナショナルチームの最古参として世界選手権代表にも2回（一九六七・七〇）選ばれている。今回のメンバーのうち世界選手権運続出場者はコックとH・セーゲルスタード、L・エリクソン、ベンクト・ヨハンソンの4人だけだ。

守りの要、エリクソン

守りの中心はD・エリクソン。今シーズンのスウェーデン・リーグの最優秀選手。「ヘルラス・ストックフォルム」2連勝の立役者といわれる。

このほか、主将のベンクト・ヨハンソンのキャリア豊かな巧技、将来がしよく望されている左腕O・オルソン、ハンドボールセンス抜群といわれるK・G・キエルとG・H・セーゲルスタードのコンビ、若手アタッカーの有望株T・ペールソンらのプレーはファンを驚ろかすことだろう。

特にオルソンとペールソンはメキメキ力をつけて来た新鋭。オルソンは「スウェーデンのグルイア(ルーマニア)」といわれるほど切れ味のよいシュートをとばす。

ペールソンの攻撃力も世界選手権で実証ずみである。サウスポーの特徴を生かし、サイドシュート・アンダーシュートをびしびしきめる技巧派。その鋭いシュートはみものである。

蹴球でも名手・ストリョーム

□……GK陣もスキがない。F・ストリョームは、世界選手権の第一キーパー。予選リーグで東ドイツを破ったのは彼の沈着なプレーにおうところが大きかった、と大讃辞が当時送られた。サッカーのGKとしても一流で、「ヘラス・ストックフォルム」では両種目のGKをつとめているほど。

L・カールソンは「ベストラ・フリョルンダクラブ」の新鋭。

なお、世界選手権でストリョームの控えをつとめたトマソンは来日メンバーからはずれた。

ちなみに昨年の世界選手権代表(16名)のうち今回の遠征に不参加なのはトマソンとFPヤンソンの二人だけ。

32才のベテラン、カールソンの名が見えぬのはダネル、ネドバルらとともにオリンピック候補からもれたため〝来日資格〟もなくなった、という厳しさである。カールソンの退陣はヨーロッパ通のファンにとっては残念であろう。

五輪優勝狙うヤングパワー

□……スウェーデンが〝金メダル〟候補といわれる一つの理由はその若さにある。一九六七年の世界選手権を終るや同国は王座奪還を唯一の目標に老巧・若手半々のナショナルチームを編成、一九七〇年の大会で「優勝」の足がかりをつかみ、そして一九七三年の第8回世界選手権を照準にしたのだ。ところが、一九七二年にオリンピック開催が決まり、彼らの〝的〟は「初のゴールドメダリスト」に切り替った。

昨年の大会では優勝国ルーマニアと13―15の接戦(=準々決勝)、しかも後半10分7―13の劣勢からみせた追いこみの鋭さは関係者の目をみはらさせた。この時からスウェーデンに〝金メダル候補〟の名が冠せられたのだ。(ルーマニアには今春1月の対抗戦で15―11・13―9で2連勝している)

実は、昨年の世界選手権で同国のベストエイト入りは不可能視されていた。彼らの加った予選リーグA組の顔ぶれは東ドイツ、ソビエト、ノルウェー、スウェーデン。誰もが東ドイツ、ソビエト有利とみており、日本の関係者さえもスウェーデンはあまりマークをしていなかった。

ところが大会第2日東ドイツを11―9で破る大番狂せを演じてヨ

スウェーデン ナショナルチーム


M・コック


D・エリクソン


O・オルソン


L・エリクソン


マットソン監督


T・ペールソン

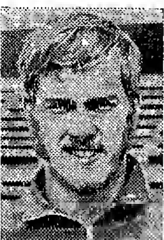

T・ヤンソン


L・カールソン


G・H・セゲルスタード


ベンクト ヨハンソン


S・オルソン


B・ストリッドフ


ベニーヨハンソン


F・ストリョーム


B・スヨデルベルグ


K・G・キエル


B・アンデルソン

スウェーデンナショナルチーム 来日選手団

役職	氏名	肩書
団長	アラン・アドルフソン	スウェーデン協会副会長
役員	オーケ・ニルソン	スウェーデン協会理事
役員	エナール・オロフソン	スウェーデン協会理事
役員	インガ・アドルフソン夫人	
監督	ローランド・マットソン	ナショナルチーム監督
コーチ	シゴ・ビエルス	ナショナルチーム副コーチ
コーチ	カール・エリック・アイネルト	ナショナルチーム副コーチ
ドクター	ペア・ガールステン	医学博士
審判員	ソリルド・ヤーネルスタム	国際公認審判員

選手	背番	年令	身長	体重	国際公式試合出場
GK	⑫ラルス・カールソン	(23)	181.	76	8回
	◎①フランク・ストリョーム	(24)	189.	80	39回
FP	◎⑩ビョルン・アンデルソン	(24)	196.	98	24回
	◎③ダン・エリクソン	(24)	186.	86	32回
	◎⑦レナルト・エリクソン	(27)	191.	87	70回
	⑬ボー・アンデルソン	(20)	178.	79	初
	◎⑰ベンクト・ヨハンソン	(27)	194.	88	60回
	④ベニー・ヨハンソン	(24)	187.	81	17回
	◎⑤クルト・ギョラン・キエル	(28)	187.	80	42回
	◎⑨ミカエル・コック	(29)	175.	77	54回
	◎②オッレ・オルソン	(23)	194.	88	16回
	◎⑧トーマス・ペールソン	(24)	190.	82	27回
	◎⑥ギョラン・H・セーゲルスタド	(26)	187.	81	46回
	⑭ヤン・ヨハンソン	(23)	176.	76	4回
	⑪ベールチール・スヨデルベルグ	(24)	179.	80	12回
	⑮ヨハン・フィツシエル	(27)	180.	79	2回

◎印は昨年の世界選手権代表

ーロッパ中を沸かせ、堂々A組1位で決勝トーナメントに進出したのである。

勝因は若い力に予想以上の安定とたくましさがあったからだ。

そのメンバーがほとんど健在でミュンヘンをめざす。

世界選手権に三たび優勝

□……同国がいわゆる新興のハンドボール国でない、という点でもファンは31年の西ドイツと匹敵する意義をみつけだせるであろう。

世界男子7人制選手権におけるスウェーデンの成績

▽第1回（昭13） 3位
▽第2回（昭29） 優勝
▽第3回（昭33） 優勝
▽第4回（昭36） 3位
▽第5回（昭39） 2位
▽第6回（昭42） 5位
▽第7回（昭45） 6位
▼参考
▽第2回世界男子11人制優勝
▽第1回世界学生優勝

スウェーデンがこれまで世界の桧舞台で刻した栄光の記録は別表のようなものだ。最近の成績が6位ということで、この国を「下り坂」と評するのは大きな間違いであることを、これまでの文中から察していただきたい。

7人制の発展に貢献

□……スウェーデンが世界に占める位置の大きさは世界選手権における成績ばかりではない。むしろそれ以上に高く評価せねばならぬ貢献をこの国は示している。

すなわち11人制（フィールド）ハンドボールの発祥地がドイツであるなら7人制（インドア）のふるさとは北欧であり、その歴史はドイツにおけるフィールドのそれよりも古いとさえいわれることだ。

特にデンマーク、スウェーデンにおけるインドアの発達史は、この競技の主流がインドア（7人制）となった現今、大きな意味をもってこよう。

□……北欧でインドア・ハンドボールがめざましい発展を遂げたのは半年近く氷と雪に閉ざされた自然環境によるものだ。ちなみに世界最初の7人制国際試合は一九三五年（昭10）三月のスウェーデン対デンマークである。

フィールド（11人制）の母国ドイツが第2次世界大戦の戦火をあびたこともハンドボール史上見おとすことができない。7人制を主流としたスウェーデン、デンマークは戦災の被害も少なくスポーツ活動をほとんど休止せずにすんだ。一九四五年大戦終了とともに国際ハンドボール界もいち早く復興にとりかかり、その主導権を握ったのがスウェーデン、デンマークなどであった。

□……一九四六年新しい国際ハンドボール連盟（IHF）が生まれ、初代会長にスウェーデン協会長G・ビョエルク氏が推された。

国際舞台におけるスウェーデンの抬頭は7人制の躍進ともいえた。第2次大戦後初の7人制世界選手権は一九五四年スウェーデンで開かれ、スウェーデンがドイツを17－14で破った。この勝利でハンドボールの将来もはっきり方向づけられたといってもよいのだと思う。

□……一九五〇年代に入って世界のハンドボール界は急速に伸びた。しかも積極的にハンドボールを採りいれた国はすべて7人制に重点をおいた。それは〝北欧ハンドボール制覇〟でありスウェーデンの誇りと栄光をいっそう輝やかしいものにさせることでもあった。

□……北欧の盟主としてスウェーデンは、そのプライドにかけてもミュンヘン・オリンピックで金メダルを掌中にしたいところであろう。

周到な準備と計画による金メダルへの道。

その〝主役たち〟がいっせいに羽田へおり立つ。史上最強の来日チームという看板に偽りはない

全日本代表チーム
（オリンピック予選第3次候補）

監督 村田 弘 日本協会常務理事
コーチ 竹野 奉昭 日本協会オリンピック対策委員

選手	背番	年令	身長	体重	国際公式試合出場
GK	◎①下里 敏彦	(24)	184.	73	17回
	◎⑫本田 洋	(24)	178.	75	15回
	⑰大村 久	(22)	178.	72	初
FP	◎②飯田 誠行	(25)	188.	82	23回
	③有永 修二	(22)	187.	82	6回
	◎⑤斎藤 光男	(22)	183.	83	7回
	◎⑥木野 実	(25)	180.	75	25回
	◎⑦早川 清孝	(24)	180.	75	13回
	◎⑧中井 武三	(22)	180.	72	7回
	⑨新実 俊夫	(21)	180.	77	初
	⑩氷海 正行	(21)	180.	76	初
	◎⑪東 一敏	(25)	179、	71	16回
	◎⑬藤中 憲二	(23)	179.	70	13回
	⑭花輪 博	(20)	177.	72	初
	◎⑮近藤 信行	(27)	171.	65	23回
	◎⑯野田 清	(25)	168.	65	18回
	◎⑱近森 克彦	(25)	181.	78	25回
	⑲大江 隆夫	(22)	170.	68	初

マネジャー 鈴木 義久(22)

◎印は昨年の世界選手権代表

どう戦うか全日本

□……国内におけるナショナルマッチ（国際公式試合）は昭和41年9月の対中国戦以来実に5年ぶり。ましてや2ケ月後にオリンピックアジア予選を控えているとあって今回の4試合は内外の注目を集めている。

全日本にとっては、5年がかりのオリンピック対策の総仕上げでもあり、その真価を問われる一戦でもあるわけだが、卒直にいって国内チームを相手にした時の試合ぶりは、もうひとつ歯切れがわるいだけに、世界6位を相手に堂々の展開を期待したい。

□……「オリンピックは参加することが意義」といった時代は過ぎた。日本協会も〝ミュンヘンの目標〟は「参加」ではなく「上位入賞」においている。

スウェーデンの実力はなみなみならぬものがあり、力と技をミックスした多彩なフォーメーションプレーはルーマニア、東ドイツ、ユーゴら世界のトップスリーも一目おくほどだ。

全日本もよほど気力を充実させてかからないと押しまくられるだろう。

□……3勝はムリとしても2勝2敗の線を守って欲しい、というのは協会首脳陣。

昨春の世界選手権でヨーロッパの関係者を驚嘆させたというユーゴ戦のような技と斗志をみせればこの〝希望〟に応えられよう。

日本オリンピック委員会（JOC）のミュンヘン派遣態度が不安定なだけに、スウェーデン戦での善戦はオリンピックへの道の「必須条件」ともいえる。

全日本にとっては、このシリーズからオリンピックへの戦いの実質的な火ぶたが切られるのだ。

善戦というよりも、勝ち作戦で臨み、ぜひとも対等の試合をやってほしい。

日本―スウェーデン これまでの交流

①昭38. 1. 1（ルンド）					
	スウェーデン学生	26	(13―3 / 13―12)	15	全日本学生
※この試合は第1回世界学生予選リーグ					
②昭38、1. 5（ルンド）					
	全日本学生	25	(12―10 / 13―9)	19	ルンド・マルモ混成軍
③昭38、1、8（ストックホルム）					
	ストックフォルム選抜	34	(17―7 / 17―13)	20	全日本学生
④昭42、1. 16（ストックフォルム）					
	全日本	34	(15―14 / 19―10)	24	テイレセエ
⑤昭42、1、17（ストックフォルム）					
	ストックフォルム選抜	24	(13―6 / 11―17)	23	全日本
⑥昭42、1、8（ハーセン）					
	全日本	32	(16―12 / 16―13)	25	リーディング

（注）ナショナルチーム同士の対戦はなし

ヤーネルスタム審判も同行

□……ところで来日チームには国際公認審判員T・ヤーネルスタム氏が同行する。ラルソン氏と組むそのペアは現代最高のレフェリングという定評を得ており、昨年の世界選手権決勝（ルーマニア対東ドイツ）をはじめ最近の国際的ビッグゲームはほとんどこのペアが担当している。

いうまでもなく、世界選手権などの決勝戦の審判をうけもつことは最高の名誉、IHFは決勝審判員には優勝国の選手へ授与される優勝メダルと同型のメダルを贈ってその栄光をたたえるほど。

□……日本協会審判部ではヤーネルスタム氏に第3戦と最終戦のレフェリー（日本審判員とのペア）を依頼する予定だが、11月のオリンピックアジア予選はヨーロッパから派遣される4審判員で運行されることになっており、その意味でも〝本場の笛〟に接しておくことは意味があろう。

また医学博士P・ガールステン氏が同行するが、ドクターをメンバーの一員にするのは今やナショナルチームの〝常識〟、日本協会もぜひ見習って欲しい姿勢だ。

関東学生、全熊本の陣容決まる

スウェーデンと対戦する関東学生選抜、全熊本の陣容は次のとおり

【関東学生選抜】▽監督　滝口三郎（明大出）▽コーチ　北川勇喜（日体大出）▽GK　馬渕（立教）、吉田（早大）▽FP　松原、佐藤雄、松岡（以上日体）、佐藤要、佐々木（以上中央）、明石、大江（以上芝浦工大）、荒井、田上（以上法政）、松（日大）、菊池（早大）、吉本（立教）、上野（国士館）

【全熊本】▽監督　元田敦海▽コーチ　高島協助、谷脇寛▽GK島田三穂野（以上熊本教職員）九谷（熊本商大）▽FP平井、松川、吉村矢住、葦原、坂田英（以上熊本教職員）秦、毛利、坂田俊（以上熊本トヨタ）井、江口、関（以上熊本ク）皿井（熊本工大）緒方（熊本大）林（中央大）

最高は1000円

オリンピック予選（東京大会）入場券

9月中旬から前売り

オリンピックアジア予選運営委員会（常任委）はこのほど同予選東京大会の入場料金を決め発表した。

それによると11月14、17日東京体育館での試合は千円、五百円の二種類のほか中高校生用三百円券を発売、26、28日駒沢屋内球技場での試合は千円、五百円の二種類。いずれも9月中旬から売り出される予定で地方のファンにはダイレクトメール式（チーム単位）の予約制が考えられている。

これらの料金は5月の月例常務理事会で総務企画部が示した原案を荒川理事長が各方面の意向を打診した結果同委で最終決定したもの。

駒沢分に三百円券（中高校生）がないのは会場の収容力が少いため。大阪大会（11月20日）名古屋大会（23日）の入場料も近く発表される。

荒川運営委員長（日本協会理事長）の話。日本協会が生まれて初めての大事業であり、多くの人が観戦して欲しい。駒沢会場に中高校生券を発行できないのは誠に心苦しい。大会運営には入場料収入900万円がどうしても必要でやむを得なかった。

招待券なども国際関係と体協筋だけにおさえるつもりだ。

台湾協会 アジア学童大会を計画

台湾協会（中華民国全国手球委員会）は、来年5月、台北、台中、高雄市などで第1回アジア学童ハンドボール大会を開く計画を進めている。

日本、韓国、フィリピン、イスラエルなどからチームを招き、親善、友好を深めようというもので実現すればアジアでは初の国際大会となるだけに今後のなりゆきが注目される。

なお、8月20日現在、日本協会はこの大会に関する詳しい資料を得ていない。

上昇ムードのイスラエル

国際大会で優勝飾る

日本、韓国とオリンピック出場権を争うイスラエルは4月29日から5月5日までヨーロッパの5ケ国を招待し国際大会を行った。

これはイスラエル国際スポーツ祭の一環として開かれたものだがイスラエルは地元の利を活かしてみごとに優勝を飾った。予選リーグでデンマーク（世界選手権4位）を破っているのは注目され、日本の関係者も〝警戒〟している。デンマークがどのようなメンバーをこの大会へ送りこんだかは不明。

▽予選リーグA組

イスラエル 14（9－8、5－4）12 オーストリア

デンマーク 18－14 オーストリア

イスラエル 23（10－10、13－4）14 デンマーク

▽同B組

オランダ 13－12 ベルギー

ベルギー 33－13 イタリア

オランダ 19－7 イタリア

▽5位決定戦

オーストリア 33－16 イタリア

▽3位決定戦

デンマーク 25－13 ベルギー

▽決勝

イスラエル 26（12－6、14－7）13 オランダ

韓国代表団は18人

8月3日ソウル発合同＝共同電によると韓国ハンドボール協会は同日、オリンピックアジア予選に18人の選手団（役員2、選手16）を送ると発表した。この人数はフル・エントリーである。

平岡選手、「全日本」を辞退

ナショナルチーム・平岡秀雄選手（東京教大出、東京教員ク）は8月の強化合宿を前に勤務上（東京暁星学園）の都合でオリンピック第3次候補選手を辞退すると申し出た。

日本協会では8月23日の月例常務理事会で協議の結果了承した。これでナショナルチームは18名（GK3、FP15）となった。

強化つづく全日本女子

第4回世界女子選手権（12月9日～19日・オランダ）で上位入賞を目指す全日本女子、山田計監督ら17人は7月の熊本、鹿児島合宿につづいて9月3日から12日まで三重県四日市市で第四次合宿（通算第六次）を行った。このあと仕上げの合宿を10月14日から20日まで東京で行う。出発は11月上旬の予定で、世界選手権までにチェコ、ルーマニア、フランス、スウェーデン、西ドイツなどを転戦する計画である。

大崎電気、2年ぶりの優勝

～白熱の全日本男子実業団リーグ～

大同製鋼・ワクナガ薬品の追撃かわす

第12回全日本男子実業団選手権（日本男子実業団リーグ）は7月21日から25日まで名古屋市体育館で行われ、大崎電気（埼玉）が2年ぶり11回目の優勝を遂げた。

2組の予選リーグから勝ちあがった4強による決勝リーグは球界最上位という叫び声にふさわしい激戦の連続となり見応えのある大会であった。なお、女子選手権は本誌既報のとおり7月7日から熊本市で開かれ大洋デパート（熊本）が優勝している。

ワクナガ、順当に勝進む

三景は本田技研降す

○……予選リーグ……○

▽A組

本田技研鈴鹿（三重） 19（5－7、14－5）12 セントラル自動車（神奈川）

（この記録は順位決定戦に適用）

ワクナガ薬品（大阪） 22（14－2、8－9）11 三景（東京）

（この記録は決勝リーグに適用）

ワクナガ薬品 27（14－5、13－10）15 セントラル自動車

三景 22（10－7、12－10）17 本田技研鈴鹿

三景 21（12－6、9－11）17 セントラル自動車

ワクナガ薬品 21（12－2、9－4）6 本田技研鈴鹿

【順位】①ワクナガ薬品②三景＝以上決勝リーグへ③本田技研④セントラル自動車

□……ワクナガが順当に勝ち星三つを重ねた。善戦を期待された三景も立ちあがりから一気に9点を奪われては手のほどこしようがなかった。

三景×本田はなかなかの好試合。本田が7MT2本で好調に滑り出したが三景は内藤の巧技などで18分5－4と逆転、そのあと4点を加えて25分9－4と主導権を握った。

本田の後半の反撃が注目されたが、ディフェンスに粘りがなく、5分までに5点を失う拙戦でここで勝負は決まった。

トーナメント（6月・下松）から勝ち進んで来たセントラル自動車は羽毛田・峰の鋭れた攻撃力を活かして健斗したが、やはり上位クラスに比べると甘さがのぞき本田戦も前半有利に進めながら後半たてつづけに7点を失うなどして敗退した。

大崎、大同製鋼を破る

▽B組

大崎電気（埼玉） 22（13－2、9－6）8 ムネカタ（大阪）

大同製鋼（愛知） 30（11－6、19－9）15 住友化学菊本（愛媛）

大崎電気 20（12－4、8－12）16 住友化学菊本

大同製鋼 34（15－5、19－5）10 ムネカタ

住友化学菊本 19（8－5、11－4）9 ムネカタ

（この記録は順位決定戦に適用）

大崎電気 13（2－4、11－4）8 大同製鋼

（この記録は決勝リーグに適用）

得	【大崎】		【大同】	得
0	下里	GK	柳川	0
0	岩下	GK		
1	近藤		野田	0
2	飯田		藤中	2
3	近森		加藤	0
4	東		中井	3
1	籏野	FP	小松	0
2	佐藤		戸谷	3
0	谷口		栃原	0
0	林		小沢	0
0	西村	（審・奥村、鈴木）	木村	0
0	井上		守田	0
13	（0）	7MT	（1）	8

【順位】①大崎電気②大同鋼製＝以上決勝リーグへ③住友化学菊本④ムネカタ（旧名・宗形製作所）

□……注目の大崎×大同。前半大同はベテラン戸谷のポストプレーと藤中、中井のゴールで4点をあげ、守っても粘りのあるマークで13、24分に1点づつ失っただけだった。

しかし後半に入るとディフェンスが乱れ、巧者揃いの大崎は東の連続ゲットで5分4－4のタイ。7分飯田のシュートで逆転した。

大同も9分7MT（中井）でいちどは追いついたが、守りが立ちなおれず大崎は13分近森のゲットを口火に4ゴール、9－5と差がついた。大同の反撃で終盤再び盛りあがったが、大崎はいったん握ったペースをがっちり守って貴重な勝利を決めた。

□……住化菊本の試合ぶりが目立った。大同には押しまくられたが大崎戦は後半15分すぎから激しい追いこみをみせた。新人曽我部、千載の加入でスキがなくなり加藤白石、伊藤らの攻撃陣に厚味ができた。

ムネカタは村上、金子が健在なものの持ち駒不足。

大同の追いこみ空し

○……決勝リーグ……○

大崎電気 18（10－4、8－6）10 三景

得	【三景】		【大崎】	得
0	西牧健	GK	下里	0
0	大井	GK	岩下	0
2	山原	FP	近藤	0
3	喜田	FP	近森	3
2	高梨	FP	佐藤	3
1	内藤	FP	東	3
1	植田	FP	飯田	5
0	武井	FP	谷口	4
0	上平	FP	籏野	0
0	池崎	FP	林	0
0	西牧晃	FP	西村	0
1	竹村	FP		
10	（0）	TM 7	（0）	18

（審・吉川・河野）

□……三景が先行すれば、という期待も、大崎の速攻がさえて16分で9－1。後半開始後三景は連続3ゴールで7－10と追いあげだが大崎は佐藤、谷口らでよく動いて優位を守り制勝した。

大同製鋼 11（2－4／9－2）6 ワクナガ薬品

得	【ワク】		【大同】	得
0	今井	GK	柳川	0
0	国本	GK		
0	市原	FP	野田	3
0	木野	FP	藤中	1
2	早川	FP	加藤	0
1	森	FP	中井	5
2	高橋	FP	戸谷	2
1	戸田	FP	守田	0
0	松井	FP	栃原	0
0	藤井	FP	小松	0
0	杉野	FP	小沢	0
0	田中	FP	木村	0
6	（1）	MT 7	（1）	11

（審・奥村・浅野）

□……前半はワクナガが数少ないチャンスを早川、森、戸田らがいかにもテクニシャンらしい巧技で活かし優位に立った。大同は老練ぞろいにしては固さがのぞき、中井、戸谷の2点だけ。

後半になるとようやく大同FP陣にエンジンがかかった。当たっている中井にボールを集める策戦がよかったし、野田も要所で巧いシュートを決めた。

□……こうなると守りの動きも滑らかになる。

多彩な変化で攻めこむワクナガを出足よくつぶしGK柳川も堅いプレー。中盤からは完全に大同のペースだった。ワクナガは得点機をつかみながらシュートが再三ゴールポストに当たる不運などあったが、高橋の2点だけでは勝ち目はなかった。

大崎戦を落とし土たん場に追いこまれた大同の気力勝ちだった。

年次優勝チーム

①～⑩	大崎電気（10連覇）
⑪	ワクナガ薬品
⑫	大崎電気

大同製鋼 27（15－5／12－7）12 三景

得	【三景】		【大同】	得
0	西牧健	GK	柳川	0
0	大井	GK	倉谷	0
0	武井	FP	野田	11
4	植田	FP	小松	0
0	内藤	FP	栃原	2
2	高梨	FP	加藤	1
3	喜田	FP	中井	8
2	山原	FP	藤中	4
1	竹村	FP	戸谷	1
0	西牧晃	FP	小沢	0
0	上平	FP	木村	0
0	池崎	FP	守田	0
12	（1）	MT 7	（3）	27

（審・鈴木・吉川）

大会総評

田中滋章（全日本実連理事長）

予想通りワクナガ・大同・大崎の3強リーグとなり大崎はワクナガと引分けたが大同を降して優勝、一年奪われた王座を取り戻すことに成功した。長年の努力とファイトで奪い返した大崎電気チーム諸君に心から敬意を表します。本大会は優勝争いも勿論だがナショナルプレーヤーが所属チームから出場する最後の大会ということで彼らがいかに斗うかが最大のみどころといえた。しかし対戦チームもよくわきまえ各プレーヤーともその動きを封じられたため、他の選手の活躍が目についた。問題となるのは大同大崎戦、ワクナガ大同戦においてレフェリーの判定に不満を持ち大きく崩れたことである。本部席で見ていた限りではそれ程おかしな笛とは思えず、例え当該チームにそれが感じられたとしても僅かな時間であるに違いない。それが両ゲームとも5点の大差になってしまった。

選手をいましめるべきベンチ自身が興奮していたことも責められるが、ナショナル選手も同様に興奮して足が止ってしまい、攻めても無理なシュートを放って反撃を許し大差をつけられてしまった。だからこの中にあって大同のベテラン戸谷君が黙々とプレーしていたのが余計目についた。ナショナル選手ともなれば当然レフェリーの笛にあわせてプレーできるはずだし、また逆にそれを利用して味方を有利に持ち込めるはずである。レフェリーは常に己れのためにあるのではないのだから今後とも充分に注意して欲しいものだ。もしこれが僅か一回のチャンスであるアジア予選に出た時のことを考えると背筋が寒くなる。この大会後、近森君(大崎電気)が全日本に復帰したが彼のディフェンス力、沈着なプレーはそれに充分値いし全日本チームに大きな力がプラスされるだろうと本部席でもみていた。彼の今後の精進を期待したい。

運営面については交通便の悪い名古屋市体育館であったにもかかわらず連日多数の観客を集め、入場料収入だけでも20数万円をあげたと聞く。あいかわらず愛知実連の努力には頭が下がるが、熊本の女子リーグといい多数のファンに見て載けたことは非常に喜こばしい限りである。

全日本実連ではこれで本年度の日程を無事終えることができたが関係各位のご協力に心から感謝し、各チームにおいては今年より来年と一層の努力を要望する。（了）

□……いきなり失った3点を三景が追って前半20分まではせりあいを演じたが、大同は20分藤中、21分野田のゲットで10―5と放し主導権を握った。

後半に進むとスピードにあふれた大同の一方的な試合となり巧者を並べた三景もつけいるスキがなかった。大同はこれで得失点差プラス15となり最終戦に他力ながら〃優勝〃の望みをかけた。

大崎、辛くも引き分け

大崎電気 8（4―2、4―6）8 ワクナガ薬品
引き分け

【ワク】	得		【大崎】	得
今井	0	GK	下里	0
市原	1	FP	近森	3
木野	3		東	1
早川	0		佐藤	1
森	1		近藤	1
高橋	2		飯田	1
戸田	1		籏野	0
松井	0		谷口	1
藤井	0		林	0
菅	0		西村	0
田中	0			
8	(0)	7MT	(0)	8

（審・浅野・奥村）

□……大崎は引き分けでも優勝、ワクナガは10点差以上の勝利が必要、ワクナガが9点差以下で勝つと大同にタイトルがころげこむ。地元・大同ファンの多いスタンドはワクナガに応援だ。

大崎は巧く立ちあがった。1分東、2分谷口、7分近森で3―0。10分をすぎると今度はワクナガが高橋と木野で3ゴールをあげタイ。

〃一区切り3点〃の妙な試合運び

はこのあとワクナガと大崎がもう1回くり返して後半6分6―6とタイスコア。

□……勝負は10分以後の終盤にかかった。大崎は10分近森がゲット、ワクナガも8分森が得点。23分ワクナガは木野が好シュートをはなって8―7とこの試合初めてリード。動きにリズムのでてきたワクナガがこの先行で勢いにのるかとみえたが、大崎は26分ワクナガのわずかなミスをついて近藤―近森のコンビ攻撃でどうにか8―8と同点にした。そのあと4分、互いに決め手がなく引き分け。

それにしても大崎、大同、ワクナガが3強のつばぜり合いは見応えがあった。今後ことあるごとに白熱の展開を示すことになりそうで興味深い。

決勝リーグ

	崎	同	ワ	三	P	勝	分	負	得	失
①大崎電気	…	(○)	△	○	5	2	1	0	39	26
②大同製鋼	(●)	…	○	○	4	2	0	1	46	31
③ワクナガ	△	●	…	(○)	3	1	1	1	36	30
④三景	●	●	(●)	…	0	0	0	3	33	69

5～8位決定リーグ

	住	友	ム	セ	P	勝	分	負	得	失
⑤住化菊本	…	○	(○)	○	6	3	0	0	54	30
⑥本田技研	●	…	○	(○)	4	2	0	1	49	39
⑦ムネカタ	(●)	●	…	○	2	1	0	2	33	49
⑧セ自動車	●	(●)	●	…	0	0	0	0	33	51

Pはポイント（勝ち点）
（ ）内は予選リーグでの勝敗

5位に住化、本田は6位

○…5～8位決定リーグ…○

本田技研鈴鹿 20（10―3、10―9）12 ムネカタ

住友化学菊本 20（10―5、10―6）11 セントラル自動車

ムネカタ 12（9―4、3―6）10 セントラル自動車

【セ自】	得		【ムネ】	得
吉賀	0	GK	古閑	0
片桐	0			
羽毛田	1	FP	村上	2
中村	1		金子	3
清水	1		黒田	3
峰	3		岩畔	0
若崎	2		篠原	1
加藤	2		青山	0
小沼	0		辻	3
新開	0			
吉沢	0			
石垣	0			
10	(1)	7MT	(1)	12

（審・河野・吉川）

住友化学菊本 15（8―4、7―6）10 本田技研鈴鹿

【本田】	得		【住化】	得
戸田	0	GK	藤田	0
加藤勇	0			
田中	1	FP	伊藤	2
勝田	0		千載	1
星野	0		加藤	6
小川	2		曽我部	2
未岡	1		落海	2
大下	3		白石	2
岩本	1		原	0
宮川	1		富岡	0
三浦	0			
加藤玉	1			
10	(0)	7MT	(0)	15

（審・林・西川）

下里らベスト7に

全日本実連は大会終了後、ベストセブンを次のように決め表彰した。

▽GK 下里敏彦（大崎電気）▽FP 近森克彦、東一敏（以上大崎電気）木野実、早川清孝（以上ワクナガ薬品）中井武三（大同製鋼）喜田建男（三景）

〔訂正〕本誌89号12頁白花醸造選手名〃俞広淑〃を俞慶淑に訂正しおわびします。

学生東西対抗、陣容決まる

9月18日、名古屋で対戦

▼男子【東軍】▽監督 滝口三郎▽コーチ 北川勇喜▽マネジャー 今井昇一▽GK 馬淵（立教）、高橋誠（日体）▽FP松原、高橋精、佐藤富、佐藤雄、松岡（以上日体）佐藤、佐々木（以上中央）、明石（芝工大）、荒井（法政）、松（日大）酒尾（金沢工大）、山本（仙台大）

【西軍】▽監督 石井喜八▽コーチ 横井保信▽主務 伊谷勝幸▽GK 逢坂（大阪体大）、森友（大阪経大）▽FP藤井、中村（以上大阪体大）川口、飼沼（以上名城）、木原、大山（以上松山商大）、岩原、牧（以上西南学院）、橋本（大阪経大）、川上（関学）、松井（同志社）、夏目（中京）、磯道（広島大福山）

▼女子【東軍】▽監督 藤原侑▽コーチ 高野亮▽主務 藤森妙子▽GK 大工原（日体）、松井（東京教大）▽FP 永田、嶋田、木村福田、赤塚、小貫、岩本（以上日体）、渡辺、韮沢、継（以上東京教大）、高橋、堀江、川井（以上東女体大）

【西軍】▽監督 岡本克彰▽コーチ 山崎武▽主務 上島加代子▽GK 柿田（甲子園）、戸谷（大阪体大）、白井、継田（以上甲子園）、宮田、▽FP辻、宮田、和歌、乗正房、田島、佐竹（以上中京）、玉岡、岡（以上大阪体大）、大崎、安井（以上中京大）

湯沢（秋田）逆転で初優勝飾る

〜第22回全日本高校選手権・松山市〜

女子も山陽女（広島）が初の栄冠

感激の初優勝。今年の高校日本一は男子が湯沢（秋田）、女子が山陽女子（広島）に決まつた。

——盛夏に若い力を競う第22回全日本高校選手権は8月2日から7日まで松山北高球技場を主会場に全国の激しい予選を勝ち抜いた男女107校、約千六百人の選手が参加して行われた。男女とも秋田勢が決勝へ進出、男子の湯沢は健斗の佐世保北（長崎）に逆転勝ちしたが、女子の和洋女（秋田）は前半山陽女の快攻をうけて2度目の優勝を逸した。男子で東北・秋田代表の優勝は初、女子の中国・広島代表が優勝したのも初めて。来年の第23回大会は8月1日から7日まで山形県東根市で開かれる予定。

男子（54校）

桜台、麻生を押し切る

湯沢、和歌山商と接戦

▽1回戦

桜台（愛知）17（7—5、10—2）7 麻生（茨城）

関東2位の麻生も後半の桜台の猛攻の前に一回戦で消えた。

那覇商（沖縄）12（5—2、7—3）5 津（三重）

遠来の那覇商の地力勝ち。津は積極性が望まれる

岐山（岐阜）15（8—6、7—5）11 前橋工（群馬）

岐山はロングで得点を重ねた。前橋もよく戦ったが一歩及ばず。

清水商（静岡）25（11—6、14—5）11 倉吉産業（鳥取）

清水の順当勝ちではあるが、両チームともミスが多い。

聖光学院工（福島）18（9—4、9—7）11 清水（千葉）

聖光が得たチャンスを速攻で確実にものにした勝利

小杉（富山）19（11—5、8—5）10 鰺ケ沢（青森）

小杉高のスカイプレーを初めとする早い攻撃が勝因

熊本一工（熊本）19（6—6、13—4）10 盛岡商（岩手）

前半は互角。後半熊本のセットの冴えが勝ちにつながる

湯沢（秋田）10（6—4、4—3）7 県和歌山商

一時は6—7と不利になった湯沢も、数少ないチャンスを確実に得点し、ふりきった。

池田（徳島）19（7—8、12—6）14 塔南（京都）

後半、池田は同点にしてから自己のペースで試合を進めた

松山工（愛媛）12（6—2、6—5）7 松江工（島根）

両チームとも縦のきりこみがなく凡戦。フォローに一日の長のある松山の勝利

天城（岡山）24（11—4、13—6）10 小倉西（福岡）

前半の天城のカットからの速攻で勝負は決った。

兵庫工（兵庫）12（5—3、7—3）6 追手前（高知）

長身者の多い兵庫の攻めが決め手になった。内容は乏しかった。

古川工（宮城）23（9—4、14—4）8 佐賀農（佐賀）

佐賀農の自滅。古川に練習量の豊富さが認められた。

岩国工（山口）19（8—3、11—9）12 大分東（大分）

岩国の一方的ゲームに終始。大分の攻撃は単調に過ぎた。

三本松（香川）10（5—6、5—3）9 金沢二水（石川）

二転、三転のクロスゲーム。三本松が終了間際に連続ゲットし、つきはなした。

函館有斗（北海道）14（7—3、7—5）8 塩山（山梨）

有斗の走力勝ち。塩山は一人に頼りすぎて破れ去った。

上田（長野）14（5—6、9—4）10 国学院栃木（栃木）

後半の上田の気力が勝因。栃木は自ら敗れ去った。

中大附属（東京）21（6—4、15—7）11 鹿児島工（鹿児島）

後半自己のペースで戦った中大の順当勝ち。

添上（奈良）20（9—2、11—7）9 柏崎工（新潟）

添上の広く展開した攻撃が勝因柏崎は中央によりすぎた。

神代（東京）11（5—5、6—4）9 修道（広島）

予想通りの好試合、技の神代が力の修道を制した。修道に今一つの展開力がほしかった

高島（滋賀）12（7—2、5—3）5 松山東（愛媛）

決め手のない両チームの戦いは主導権を握った高島の勝利

堺工（大阪）18（9—3、9—1）4 羽水（福井）

堺の多彩な攻撃と羽水のロングに頼る単調な攻めの差

新居浜工、聖光かわす

岩国工、中大付も順当勝ち

▽2回戦

新居浜工（愛媛）16（8－7、8－3）10 聖光学院工

後半の新居浜の速攻が直接の勝因。聖光はよく戦った。

中京（愛知）15（7－5、8－5）10 神代

中京のスピードが神代の技術を上廻った試合。好ゲームであった

堺工 21（12－6、9－7）13 法政二（神奈川）

洗練され、ハンドボールを熟知している堺工の順当勝ち。

兵庫工 14（11－3、3－7）10 古川工

前半の兵庫の走りが決め手。後半点差にもめげず良く追った古川の健斗を賞したい。

桜台 18（10－3、8－6）9 添上

桜台は前半、相手ミスに乗じ、速攻で点差を開き、勝負を決めた

池田 14（6－10、8－2）12 清水商

前半の4点差を後半良く追った池田の気力勝ち。

天城 12（6－4、6－4）8 東根工（山形）

両チームともチームプレーを練習する必要がある。天城が前半の優位を生かし、逃げきった。

熊本一工 15（4－7、11－7）14 慶応（神奈川）

前半は慶応ペース。後半慶応に退場者が出たスキにつけこんだ熊本は一気にリードを奪い、慶応のその後の反撃を辛くもふりきった

湯沢 17（8－2、9－5）7 川口工（埼玉）

湯沢のミドルミュート力の勝利川口は横パスが多く攻められなかった。

松山工 12（6－6、6－5）11 小杉

シーソーゲーム。地元の利を生かした松山の辛勝。

上田 17（8－5、9－5）10 都城泉ケ丘（宮城）

上田の速攻による一方的ゲーム都城ではGKの好守が光った。

岩国工 24（7－2、13－4）6 三本松（香川）

速攻による岩国工の攻撃で一方的な試合。三本松のミスが大きい

那覇商 15（7－4、8－8）12 高島

コンビプレーに勝る那覇のチーム力の勝利。

佐世保北（長崎）18（9－4、9－3）7 岐山

佐世保の固いディフェンスからくり出す速攻によって一方的な試合となる。

中大附属 21（8－3、13－5）8 加納（岐阜）

中大のスピード勝ち。しかし中大のディフェンスには問題がある

鳳（大阪）18（8－5、10－4）9 函館有斗

鳳は前後半とも自己のペースで多彩な攻撃をくりひろげ、快勝。

堺、延長で新居浜工破る

那覇商惜しくも敗退

▽3回戦

堺工 14（2－3、7－6、4－2、1－1）12 新居浜工

試合は二転・三転のシーソーゲーム、後半残り5分で堺は9－5と4点リード、これを新居浜が速攻で追い、同点となり延長にもつれこみ、浮足だった新居浜の守備を崩した堺工の辛勝。

上田 15（9－5、6－6）11 那覇商

個人技に一日の長のある上田の勝利。那覇は日増しに力をつけたが一歩及ばなかった。

中京 14（5－4、9－6）10 兵庫

前半は接戦。後半の兵庫の対抗策が期待されたが、実らず敗れた

桜台 14（8－5、6－6）11 天城

前半の優位を生かした桜台の順当な勝利。

中大附属 19（11－2、8－3）5 松山工

中大附の攻守の前に松山はなすところなかった。松山の健斗というべきであろう。

熊本一工 14（9－5、5－3）8 池田

降雨があり、両チームとも苦しんだが、シュート力に一日の長のある熊本の勝利

歴代全日本高校選手権校

	男子		女子	
①昭25	足利	（栃木）	岡山操山	（岡山）
②昭26	桜台	（愛知）	倉敷青陵	（岡山）
③昭27	桐生工	（群馬）	寝屋川	（大阪）
④昭28	桜台		稲沢	（愛知）
⑤昭29	桜台		寝屋川	
⑥昭30	桜台		明善	（福岡）
⑦昭31	桜台		寝屋川	
⑧昭32	桜台		水海道二	（茨城）
⑨昭33	清水商	（静岡）	寝屋川 熊本市立	（熊本）
⑩昭34	中京商	（愛知）	熊本市立	
⑪昭35	中京商		熊本市立	
⑫昭36	中京商		半田	（愛知）
⑬昭37	桜台		静岡城北	（静岡）
⑭昭38	桜台		静岡城北	
⑮昭39	明星	（東京）	栃木女	（栃木）
⑯昭40	桜台		静岡城北	
⑰昭41	明星		秋田和洋	（秋田）
⑱昭42	明星		花巻南	（岩手）
⑲昭43	下関中央工	（山口）	菊池農	（熊本）
⑳昭44	下関中央工		新居浜商	（愛媛）
㉑昭45	新居浜工	（愛媛）	水海道二	
㉒昭46	湯沢	（秋田）	山陽女	（広島）

（注）女子第9回は決勝同点で両校優勝

佐世保北 20（9－3／11－6）9 鳳

佐世保の走り勝ち、チャンスを確実に加点した。鳳はロングシュートに活路を見出すべきであった。

湯沢 8（4－4／4－1）5 岩国工

前半は湯沢がポストプレー、岩国がミドルと持ち味を生かし互角後半、岩国が1点をリードしたが湯沢も良く追いこみ、逆転し、勝利をものにした。

湯沢、中大附破り前進
佐世保北もベスト4へ

▽準々決勝

湯沢 17（8－8／6－6……2－1／1－1）16 中大附属

得	【湯沢】		【中大】	得
0	由利吉	GK	田村	0
0	小松	GK	松下	0
0	本間	FP（審・岡村 植）	蒲生	5
0	古関		大熊	6
5	由利明		佐藤	1
6	菅野		小林	3
5	阿部		宮川	1
1	押切		青山	0
0	渡辺		坪子	0
0	小川		大林	0
0	半田		原	0
0	佐藤			
17（2）		7MT		（3）16

事実上の決勝戦と思われる好ゲーム。前半は全く互角。後半中大は35分まで連続4点をゲットし、湯沢の菅野を完全にマーク絶対の優位にたったが、湯沢も40分以後の10分間に良く5点をあげ、延長にもつれこむ。

延長後、湯沢は由利明を中心に追いあげペースにのり、加点し、1点差でつき放した。

桜台 20（11－6／9－7）13 堺工

得	【桜台】		【堺工】	得
0	高橋	GK	大谷	0
0	林田	GK	青木	0
5	犬飼	FP	西上	2
1	河瀬		森島	0
2	鈴木		住本	0
4	岡本		嶋	1
2	服部		山口	2
6	上滝		河合	4
0	村瀬		北居	0
0	柴田		辻田	3
0	古橋		田ノ頭	0
0	山田		北川	1
20（2）		7MT		（0）13

桜台は快調に得点を重ね、もてる力を発揮し快勝。堺は攻撃が単調に過ぎ、そこをつけこまれた。

中京 16（7－6／9－6）12 熊本一工

得	【中京】		【熊本】	得
0	千田	GK	新樹	0
0	後藤	GK	西村	0
1	新野	FP（審・日野 辻）	楠田	0
2	布垣		金谷	3
8	岸見		仲田	0
4	三宅		佐藤	0
0	山田		岩本	4
0	近藤		柳川	1
0	佐藤		平岡	1
1	小島		渡辺	2
0	安井		川口	1
0	上野		上田	0
16（1）		7MT		（1）12

前半はほぼ互角。後半中京は速攻を多用し、着々加点。一方の熊本は中京のつぶしと厚いカベの前に攻め手がなくなり、中京ペースになってしまった。

佐世保北 13（5－3／8－4）7 上田

両チームとも守備が荒く、フリースローを得点する試合運び。35分に上田が退場者を出したことが佐世保の攻撃に力を借し、勝敗の大きな分岐点となった。

得	【佐北】		【上田】	得
0	釘田	GK	緑川	0
0	大友	GK	中曽根	0
3	山高	FP（審・丸岡 板橋）	宮崎	0
1	力武		立岡	0
1	木村		茅野	1
4	大庭		荒木	0
0	外屋		大須賀	4
0	明石		大久保	1
0	加納		南沢	1
0	村田		竹内	0
4	山里		白井	0
0	宍野		儘田	0
13（0）		7MT		（2）7

桜台、後半の追撃空し

▽準決勝

湯沢 11（7－1／4－7）8 桜台

得	【湯沢】		【桜台】	得
0	由利田	GK	高橋	0
0	小松	GK	林田	0
0	本間	FP（審・岡前 徳前）	犬飼	3
0	古関		河瀬	2
4	由利明		鈴木	0
3	菅野		岡本	2
2	阿部		服部	0
2	押切		上滝	0
0	渡辺		村瀬	1
0	小川		柴田	0
0	半田		古橋	0
0	佐藤		山田	0
11（1）				（0）8

前半湯沢は由利明の活躍でスタート直後より完全に主導権を握りオープン攻撃から得点を重ねた。

桜台は遅攻から単調な攻撃をくりかえすのみで、1点をあげたにとどまった。

後半になっても同様な経過で進み、ようやく、残り時間5分ぐらいから桜台が追いこんだが、遅かった。

佐世保北、中京降し決勝へ

佐世保北 17（12－9／5－6）15 中京

得	【佐北】		【中京】	得
0	釘田	GK	千田	0
0	大友	GK	後藤	0
8	山高	FP（審・中西 望月）	新野	2
2	力武		布垣	3
1	木村		岸見	2
5	大庭		三宅	6
0	外屋		山田	1
0	明石		近藤	0
0	加納		佐藤	1
1	村田		小島	0
0	山里		安井	0
0	宍野		上野	0
17（3）		7MT		（0）15

スタート直後から、点のとりあいとなり、乱戦模様を呈した。

中京・岸見・佐北・山高を互いにマークしあってはいたが、かえってディフェンスに乱れが生じ、点のとりあいとなった。中京は後半、1点差まで追いあげるが、それ以上に差をつめることができず佐世保にふりきられた。佐世保の山高、力武、大庭のパスワークとそれを良く得点に結びつけた山高の活躍が光った。

佐世保北、前半リード実らず
大型攻撃示した湯沢

▽決勝

湯沢 15（6－7／9－4）11 佐世保北

湯沢はフリースロー、佐世保北はカットイン・スカイプレー、フリースローと多彩な攻撃で対戦。

前半の湯沢は管野をマークされたことも手伝って、フリースロー

得	【佐北】		【湯沢】	得
0	釘田	GK	由利吉	0
0	大友	GK	小松	0
5	山高	FP（審・近藤 徳前）	本間	0
2	力武		古関	1
0	木村		由利明	4
2	大庭		菅野	7
1	明石		阿部	2
0	村田		押切	1
1	山里		渡辺	0
0	外屋		小川	0
0	加納		半田	0
0	宍野		佐藤	0
11	（1）	7MT	（1）	15

にたよりすぎたため、佐世保北にリードを許したが、後半GKの好守によって、守りを固めた湯沢がフリースローなどによって得点を重ね、初優勝を遂げた。

女子（53校）

別府青山、小平に勝つ

▽一回戦

浦添（沖縄）10（6－0、4－4）4 竹田女（山形）

浦添は先取点をとり、そのまま自己のペースで試合を進めた。

別府青山（大分）7（4－5、3－1）6 小平（東京）

後半早々にあげた青山の追加点が勝負を決めた。

暁（三重）11（5－2、6－3）5 横浜東（神奈川）

暁のリズミカルな走り勝ち。横浜には強気の策がほしかった。

初芝（大阪）8（2－3、6－4）7 古賀（福岡）

終始1点を争う好ゲーム、後半の加点で初芝が押しきった。

花巻北（岩手）11（3－0、8－3）3 松江市女（島根）

花巻が松江GKの好守に苦しみながらも加点し、楽勝

深谷女（埼玉）9（4－1、5－4）5 熊本市立（熊本）

開始早々得点した深谷はそのまま自己のペースで勝利を得た。

高蔵女高（愛知）10（5－1、5－1）2 明徳商（京都）

明徳は攻めあぐんでいる間に、高蔵は得点し、ひきはなした。

真備（岡山）10（4－4、6－3）7 武生商（福井）

凡戦。両チームのGKが不調で試合の興味をそがれた。

加納（岐阜）10（4－3、6－2）5 財部（鹿児島）

チャンスの生かしかたに巧みであった加納の勝利

国学院（栃木）7（3－2、4－1）3 岩瀬農長沼（福島）

両チームともロングで対戦したが国学院の後半の体力勝ち。

六郷（茨城）13（6－3、7－2）5 生駒（奈良）

暑さのため凡戦、八郷にミスが少なく押しきる。

巻（新潟）12（4－2、8－0）2 函館女商（北海道）

巻の長身を生かしてのミドルが勝負を決めた。

土居（愛媛）10（5－2、5－4）6 昭和学院（千葉）

土居は良く走り、チャンスは確実にものにし、快勝

徳山（山口）12（5－5、7－6）11 神崎農（佐賀）

シーソーゲーム。終了間際の7MTが決勝点になった。

山梨（山梨）7（4－4、3－2）6 枚方（大阪）

シーソーゲーム、終了間際の連続ゲットで山梨の辛勝

名古屋女商（愛知）9（4－1、5－2）3 桜水商（東京）

名女の速攻による得点の勝利。桜水はシュートが決らなかった

山陽女（広島）7（4－2、3－4）6 池田（徳島）

池田の善戦。山陽は固くなり、自己のペースを作れず苦戦

小松市女（石川）8（3－3、5－2）5 粉行（和歌山）

粉河は良く喰い下ったが、一歩及ばず敗れた。

前橋市女（群馬）15（8－3、7－6）9 青森西（青森）

前橋の速攻が良く決り、着々加点し、青森をつき放した。

市川崎（神奈川）5（1－1、4－2）3 岐阜商（岐阜）

前半の川崎はもたついたが、後半速攻で点差を開いた。

涌谷（宮城）10（5－0、5－4）4 追手前（高知）

涌谷のシュート力の勝利。追手前は前半の失点が痛かった。

水海道二、新居浜市商ともに敗退

▽二回戦

浦添 10（7－2、3－1）3 水海道二（茨城）

水海道の攻撃は浦添のGKの好守にはばまれ、一方浦添はチャンスに得点を重ね、水海道を一方的に破った。

静岡城北 7（3－1、4－2）3 八郷

城北の順当勝ち、後半城北の速攻が冴えた。

別府青山 21（12－1、9－3）4 八幡商（滋賀）

八幡と青山の基本技―走、投の差が得点になって現れた

土居 10（3－2、7－1）3 巻

前半は好ゲーム後半はリズムにのった地元土居の快勝

暁 6（4－1、2－3）4 初芝

前半の初芝は積極性に欠けた。後半同点までもちこんだが力足らず破れた。

徳山 8（3－2、5－1）3 山梨

山梨は攻撃に決め手なく苦戦。

花巻北 4（2－2、2－1）3 三本松（香川）

得点のわりには単調な攻撃のくりかえしによる凡戦

名古屋女商 14（7－4、7－2）6 小諸商（長野）

小諸は守備の甘さが致命的。名女はよくそこをついた。

和洋女（秋田）13（7－2、6－2）4 深谷女

攻守の総合力に優る和洋女の順当勝ち。

山陽女 14（7－2、7－3）5 小林商（宮崎）

小林はGKの好守もあり善戦したが、総合力の差はレキゼン

高蔵女商 7（5－2、2－3）5 真備

高蔵の縦への切りこみと速攻が僅かに優り、辛勝

小松市女　10（3－5　7－1）6　前橋市女

前半の不利を後半速攻で小松が逆転した。前橋は後半ミスを続出

有磯（富山）　8（1－5　6－2　0－0　1－0）7　加納

前半の4点差をつめた有磯の斗志の勝利

夙川学院（兵庫）　7（2－0　5－0）0　市川崎

川崎は単調な攻撃のくりかえしで完封。夙川は多彩な攻めで加点

国学院栃木　3（0－1　3－1）2　新居浜市商（愛媛）

両チームともポストにこだわりすぎ、ミドルを忘れた結果の得点

涌谷　12（4－2　8－2）4　佐世保商（長崎）

後半の涌谷の速攻が勝因。両チームのラフプレーは問題。

地元土居惜しくも敗退
ベスト8に東北勢3校

▽三回戦

別府青山　8（5－1　3－2）3　浦添

開始後10分両チームとも早い動きを見せたが、この間チャンスを確実にものにした別府青山が主導権を握り、順当勝ちした。

静岡城北　6（3－3　3－0）3　土居

前半は早い動きからロングを打ちあい、全く互角、後半土居は固くなり、単調なプレになったのが敗因。城北がオープン攻撃をし広く攻め、山本がこれを良く決めたのが勝因。

花巻北　3（2－0　1－0）0　暁

激しい降雨のため、両チームともハンドリングに苦しみ、得点をあげられない。後半、花巻はボール保持時間を長くし、35分に得た7MTを慎重に決め勝った。

名古屋女商　10（5－2　5－2）4　徳山

雨中戦にもかかわらず、名女は良く走り、確実にシュートを決めて、徳山をひきはなし、後半も自己のペースで試合を進め、ふりきった。

秋田和洋女　13（8－3　5－3）6　高蔵女商

和洋は菊地、伊藤を中心によく走り、速いペースからのシュートが多く決った。高蔵は和洋の固いディフェンスを攻めあぐみ、シュートチャンスを見出すことが困難であった。高蔵は健斗ではあったが和洋の実力が一段上であった。

山陽女　7（2－4　5－0）4　小松市女

前半は小松のサイド攻撃が冴え2点のリード。山陽は前半小松のGKの好守に苦しんだが、後半なかば以後同点にしてからは自己のペースで試合を進め逆転勝ちに成功した。

有磯　7（2－1　5－2）3　国学院栃木

前半栃木のシュートはバーに当ることが多く、その間に有磯は坂のミドルで着々と加点し、楽勝。有磯のあたりが荒かったのは今後反省を要しよう。

涌谷　10（7－1　3－2）3　夙川学院

前半、涌谷はよく走り、ロングを決め、夙川をつきはなした。夙川は7MTをおとしたり、ノーマークシュートをラインクロスなどでおとし、最後のツメが甘かったのが直接の敗因となった。

別府青山ベスト4に
和洋、城北、山陽も準決勝へ

▽準々決勝

別府青山　7（2－1　5－3）4　花巻北

【花巻】	得		得	【青山】
佐藤悦	0	GK	0	藤寄
及川	0		0	生間
寺田	2		2	高橋
佐藤文	1		0	井村
藤原	1		2	渡辺
橋	0		0	佐藤
佐藤洋	0	FP	0	川野
川村	0	（審・上田 永山）	1	川尻
堀口	0		0	中妻
本館	0		2	河野
杉原	0		0	宮崎
鎌田	0		0	惣間
	4	（1）7MT（2）	5	

スタートは両チームとも動きが少なく、特に花巻は別府を攻めあぐんだ。後半1点を争う好試合になったが、青山は速攻によって、試合のケリをつけた。

和洋女　11（5－2　6－4）6　有磯

【有磯】	得		得	【和洋】
孫田	0	GK	0	堀井
堀田	0		0	越後
古邸	0		0	松橋
坂	2		2	菊地
地子	1		7	信太
地家	0		1	伊藤
岡部	0	FP	0	塚田
東海	0	（審・望月 柳井）	0	小玉
中村	1		0	石崎
間方	2		0	武内
瀬戸	0		1	沢田
江添	0		0	武田
	6	（1）7MT（0）	11	

和洋は前半フリースローなどで着々加点し、優位にたった。有磯は和洋をせめあぐみ、単発シュートしかうてなかった。

後半に入り、有磯はコンビプレーで迫ったが、和洋の菊地、信太に決められ、つき放された。

有機が和洋のつぶしの早さと、シュート力になれた一戦。

静岡城北　7（5－0　2－4）4　名古屋女商

【名女】	得		得	【城北】
今枝	0	GK	0	山下
小久保	0		0	池谷
山田	0		3	山本
今浦	0		0	塚本
竹内	1		1	杉田
葛谷	0		0	鈴木
森	0	FP	0	杉山
今井	1	（審・徳前 岡前）	3	池野
小田	0		0	佐野
竹内	1		0	久保田
阿部	1		0	大城
坂田	0		0	鷲巣
	4	（1）　（0）	7	

前半、城北は開始早々に山本がフリースローを決め、更に15分を過ぎてから、再度山本がフリースローを決めたのをキッカケとして完全にペースを自己のものにして点差を開いた。

名女はシュートも5、6本しか打てな

かったが29分から追いあげたが追いきれなかった。

山陽女 10（4-4 6-4）8 涌谷

得	【山陽】		【涌谷】	得
0	玉　谷	GK	高　恵	0
0	三　紙		佐　藤	0
4	村　岡	FP	平　沢	2
0	和久井	（審・島田、近藤）	富　田	5
2	町　田		木村紀	0
2	折　口		木村す	0
0	坂　田		佐々木	1
0	村　上		中　村	0
2	横　山		高橋悦	0
0	蛸　瀬		加　藤	0
0	灘		柴　田	0
0	中　元			
10	（3）	7MT	（2）	8

前半山陽は涌谷を攻めあぐんだが、終了間際にディフェンスの乱れをつき、同点で終了。後半は一進一退のシーソーゲームであったが、終了間際に得た2本の7MTを山陽・村岡が決め辛勝した。

和洋快勝し、決勝へ

▽準決勝

和洋女子 16（6-2 10-2）4 別府青山

得	【和洋】		【青山】	得
0	堀　井	GK	藤　寄	0
0	越　後		生　嶋	0
2	松　橋	FP	高　橋	0
4	菊　地	（審・日野、辻）	井　村	3
5	信　太		渡　辺	1
1	伊　勢		佐　藤	0
0	塚　田		川　野	0
0	小　玉		川　尻	0
0	石　崎		中　毒	0
3	武　内		河　野	0
0	沢　田		宮　崎	0
1	武　田		惣　間	0
16	（4）	7MT	（0）	4

スタート直後から、完全に主導権を握った和洋はよく走り、ロング・ミドルシュートがよく決まり完全に一方的なゲームとしてしまった。一方青山は長身者を中央においた和洋のディフェンスに対しあまりにも策がなさすぎた。

山陽、速攻で押し切る

山陽女 8（3-3 5-1）4 静岡城北

得	【山陽】		【城北】	得
0	玉　谷	GK	山本た	0
0	三　紙		池　谷	0
5	村　岡	FP	山本悦	1
0	和久井	（審・近藤、今村）	塚　本	0
0	町　田		杉　田	0
0	折　口		鈴　木	0
0	坂　田		山本茂	0
1	村　上		池　野	3
2	横　山		佐　野	0
0	蛸　瀬		久保田	0
0	灘		大　城	0
0	中　元		鷲　草	0
8	（3）	7MT	（0）	4

前半は全く互角。城北はミドルで、山陽は鋭い切りこみから7MTで全くゆずらず、後半を迎えた城北はミドルを山陽に完全にマークされ、攻め手がなくなった。

一方の山陽は速攻が良く出、それを中心にして速い攻撃が良く決まり、一方的に押しきった。

和洋女1点差に泣く

▽決勝戦

山陽女 5（4-0 1-4）4 和洋女

得	【山陽】		【和洋】	得
0	玉　谷	GK	堀　井	0
0	三　紙		越　後	0
2	村　岡	FP	松　橋	1
0	和久井	（審・山田、望月）	菊　地	2
0	町　田		信　太	1
3	折　口		伊　藤	0
0	坂　田		小　玉	0
0	村　上		石　崎	0
0	横　山		武　内	0
0	蛸　瀬		沢　田	0
0	灘		武　田	0
0	中　元		加　藤	0
5	（1）	7MT	（1）	4

前半の和洋は固くなり、動きがギコチなく、山陽の一方的試合となった。山陽は7分までに折口があげフワースローなどから3点をあげ落ちついた。和洋は決勝戦を意識しすぎ、前半は全くなすところがなかった。

後半に入ると、和洋はスローオフ直後、信太が得点した。ここから、試合の様相はガラリと変ったられた。山陽は追われる立場の焦りが見られた。山陽はあらゆるプレーが固くなり、一方和洋はノビノビと走りはじめた。和洋はシュートに確実さがなかったため、1点差をつめることができなかった。

精神面のもち方がいかに試合を左右するかを如実に示した試合であった。（今村）

インターハイをみて

松島陽太郎

なん年ぶりかで全日本高校選手権（男子のみ）をみて、一番おどろいたのは選手の体格が大きくなったことだ（こうした傾向をわきまえてかプログラムに身長が記されているのは嬉しい配慮だった）。当然試合のスケールも一まわりも二まわりも豪快になっているのだが、いわゆる個性的なプレーを見せるチームがない点ではあまり以前と変わっていない。

一つパターンに押しこめる指導というのは日本の高校全スポーツに共通したものだが、これは指導者があまりにも手固くチームをまとめすぎるからではなかろうか。

これだけ大きなプレィヤーを揃えているのならばもっと変化に富んだ試合ができそうなものをどの試合も変わりバエがしない。

実は、拙文を書く気になったのはインターハイを久しぶりにのぞいて「感傷」にひたったからではない。テレビで8月22日の日韓高校対抗を見てチャンピオンの湯沢高が手もなく韓国代表にひねられたことによる。

韓国チームのプレーは実に多彩で選手は臨機応変の技術を身につけていた。そしてどの選手にも強烈な個性が感じられた。日韓指導者の差といったら暴論になるだろうか。

わずか3年間の高校生活でユニークなプレーを生みだすなどとんでもない、基礎々々々で終ってしまうとはある高校コーチの言葉だが、それも肯ける。中学対策が叫ばれるゆえんだろう。

すべてに〝大きい〟インターハイを私は早くみたい。それとももう一つ、レフェリーの技術に個人差（あるいはペア差）がありすぎはしないか。

拙劣なホイッスルは「この日」にかけた若者の純真な心を傷つけはしないだろうか。（投稿）

大阪イーグルス、4年ぶりの栄冠

～全日本教職員選手権～

スワロー兵庫2位　埼玉の連覇成らず

第14回全日本教職員選手権は8月18日から21日までの4日間鹿児島県隼人町の隼人工業高校球技場に全国から34チームが参加して行われた。

予想どおり有力チームが順当に勝ち進み、はげしい対抗意識による上位戦は見応えのあるものとなった。大阪イーグルス×スワロー兵庫の近畿勢による決勝は大阪が快勝し4年ぶり6回目の優勝を飾った。

▽1回戦（2試合）

長崎教員 22（13－4、9－12）16 ストーク兵庫

岐阜教員 25（9－7、10－12、2－2、4－1）22 福岡教員

▽2回戦

埼玉教員ク 23（11－2、12－12）14 岐阜教員

愛教ク（愛知） 34（18－8、16－5）13 滋賀教員

オールドイーグルス（大阪） 26（11－10、15－7）17 茨城教員

大分教員 30（16－8、14－18）26 山口県教員団

鹿児島教員団 42（18－6、24－8）14 愛媛教員

三重教員団 22（11－12、11－7）19 神奈川教員団

岡山教員 48（21－2、27－4）6 宮崎教員

スワロー兵庫 30（13－5、17－9）14 群馬教員

大阪イーグルス 棄権 佐賀教員

栃木教員 26（12－12、14－9）21 香川教員

沖縄教員 22（11－6、11－10）16 広島県教職員

愛知教員 17（8－7、9－7）14 千葉教員

熊本教員団 26（13－6、13－5）11 宮城教員団

大阪教員ク 29（13－9、16－7）16 山梨教員

和歌山教員ク 15（4－5、11－3）8 静岡教員団

東京教員 36（17－3、19－5）8 長崎教員

○……注目の愛知×千葉はスピードのある好試合。千葉は前半22分7－4とリードしたが、愛知はそのあと連続4ゴールして逆転、その優位を守り切った。

全般に乱戦模様で大あじな展開が多かったが、これは各チームとも守りの力がもう一つ欠けるためだ。

和歌山、延長で涙のむ

▽3回戦

埼玉教員ク 16（10－1、6－6）7 愛教ク

鹿児島教員団 30（17－5、13－3）8 三重教員団

スワロー兵庫 34（14－4、20－7）11 岡山教員

オールドイーグルス 30（13－10、17－12）22 大分教員団

大阪イーグルス 38（19－8、19－7）15 栃木教員

愛知教員 19（9－5、10－8）13 沖縄教員

熊本教員団 40（20－10、20－6）16 大阪教員ク

東京教員 14（7－7、4－4、2－0、1－1）12 和歌山教員ク

○……東京×和歌山がもつれた。15分4－4から東京は3ゴールして主導権を握ったかにみえたが和歌山も反撃し同点。後半、ともに決め手がないままに進み東京は26分浅野のゲットで11－10、粘る和歌山は29分塩崎が同点打を決め延長に入った。延長前半、ようやく東京はペースを握り手島、浅野でリード、後半和歌山に1点を返されたが2分大西がダメ押しのゴールをあげて辛くも逃げこんだ。

鹿児島の善戦及ばず

▽準々決勝

スワロー兵庫 15（7－9、8－4）13 鹿児島教員団

○……実力伯仲、兵庫はけ、後半24分12－12と追いつき、25分の失点もすぐ返して13－13、このあと28分井上、29分木野とたたみかけて鮮やかな逆転勝ちをおさめた。

埼玉教員ク 30（11－2、19－3）5 オールドイーグルス

○……前半8分まで埼玉の攻撃を無得点に阻んでいたイーグルスも9分北井にゴールを割れたあとは糸が切れたようにゆるみ一方的なゲームとなった。

大阪イーグルス 22（13－4、9－5）9 愛知教員

○……大阪は13分まで2－4とリードを許していたが14分樫塚のゲットを口火に得意の速攻などで一気に形勢を逆転、後半もチャンスを確実に活かす攻撃と固い守りで愛知をよせつけなかった。

東京教員 19（9－5、10－8）13 熊本教員団

○……熊本は矢住の好プレーで4－1と先制したが、東京は中盤山口の連続得点で落ち着き22分には7－5。後半は疲れのためか両チームとも組織的なプレーが見られず、個人技に秀れた東京が要所でシュートを決めて制勝。

兵庫、埼玉に鮮かな逆転勝ち
イーグルスは東京制す

▽準決勝

スワロー兵庫 18（6－11、12－5）16 埼玉教員ク

【埼玉】	得		【兵庫】	得
高橋	0	GK	上野	0
細野	0			
金子	0	FP	大原	0
高田	2		浜野	2
高戸	2		木野	1
北井	6		井上	6
結城	3		畑	3
中島朋	0		北山	2
河住	3		藤崎	0
中島雄	0		中村	3
上久保	0		黒田	1

（審・宍戸、板橋）

18（1）7MT（1）16

○……埼玉は前半10分で5—0、楽勝ペースのスタートだったのだが、兵庫の粘りに不覚をとり2連覇の夢を破られた。リードされた兵庫は後半になって追いあげの態勢を固め、埼玉の攻撃が鈍ったところをよく反撃、9分10—13から一気に5点を奪って逆転。

大阪イーグルス 18（8—3、10—8）11 東京教員

【東京】	得		【大阪】	得
綿貫	0	GK	広川	0
高橋	2	FP	安達	2
藤原	3		井上	2
山口	2		北岡	2
高野	1		福井	5
大西	2		樫塚	4
小山	0		市田	3
島田	0		河原崎	0
平島	1		青木	0
浅野	0		奥浜	0
梁川	0			

（審・上田、近藤）

18（2）7MT（2）11

○……立ちあがりは慎重な攻め合いで互角に進んだが、10分をすぎたあたりから大阪が先行、そのまま自己のペースで押しきった。

▽3位決定戦

東京教員 17（8—5、9—6）11 埼玉教員

▽決勝

大阪、前半から優位保つ

大阪イーグルス 18（7—2、11—7）9 兵庫スワロー

【兵庫】	得		【大阪】	得
上野	0	GK	広川	0
大原	1	FP	福井	6
浜野	0		樫塚	6
木野	1		安達	1
井上	0		井上	1
畑	2		青木	1
北山	2		市田	2
藤崎	0		河原崎	1
中橋	3		北岡	0
黒田	0		奥浜	0

（審・日野、近藤）

18（3）7MT（1）9

○……初優勝に燃える兵庫は40秒北山のロングで幸先よくスタートしたが、その後は20分畑が決めただけ、この間に大阪は5点をたたき出した。後半兵庫はスカイプレーなどで追撃を企ったが大阪はがっちり優位をキープ、そのまま押し切って4年ぶりで〝王座〟に返り咲いた。兵庫ではGK上野のプレーが目立った。

隼人町長杯は福岡に

◇コンソレーション・トーナメント（1回戦の敗者による競技）

▽1回戦　滋賀19—18愛媛、静岡23—11神奈川、ストーク兵庫23—13宮崎、山口24—12山梨、千葉21—15宮城、茨城28—14広島、群馬22（分）22香川＝抽せんで群馬。

▽2回戦　静岡24—16滋賀、福岡28—11兵庫、千葉19—16山口、茨城25—17群馬

▽3回戦　福岡14—12静岡、茨城17（分）17千葉＝抽せんで茨城

▽4回戦（決勝）

福岡教員 14（8—3、6—8）11 茨城教員

日韓高校親善

日本代表（湯沢 中大附）、東亜に屈す

第6回日韓高校親善試合（第4回日韓高校スポーツ交歓競技会）は韓国高校選手権優勝校東亜高（釜山）が来日して東京・駒沢屋内球技場で2試合を行った。

多彩な攻撃を誇る東亜は日本のトップチーム湯沢（秋田）と中大附（東京）を圧倒、2連勝した。6回の通算成績は日本側の20戦7勝11敗2分。（後記・杉山）

湯沢、単調な攻撃で敗る

第1戦、湯沢高（秋田・全日本高校選手権優勝校）との試合は7月22日午後1時から行われた。審判＝安藤純光、岡前義春　観衆約千三百

東亜 14（9—7、5—5）12 湯沢

【湯沢】	得		【東亜】	得
由利吉	0	GK	姜正炫	0
由利明	2	FP	車聖福	2
菅野	5		朴永甲	2
本間	0		李鍾七	1
押切	3		李正陽	2
古関	1		金成憲	7
阿部	1		金奉謙	0

14（2）7MT（0）12

○……今季21連勝の東亜、昨秋以来30戦ちかく無キズという湯沢。開始早々東亜は金成憲がポストプレーとスカイプレーで2点。さらに李鍾七が鮮やかなドリブルワークで独走ゴール。優位に立った。

○……湯沢も相手のわずかなミスをよくついて13分3—3としその後も押切の巧技などで粘ったが同点がやっと、どうしても先行できない。東亜は7—7から24分朴、24分30秒李正陽が速攻で決めて2点差。後半も2回退場者を出しながら大きな乱れもなく、しかも要所で得た7MTは車が手固く得点、19分14—10と開いた。

○……湯沢は最後まで力に頼った直線攻撃に終始、得意の速攻も東亜の早い帰陣で実らなかった。〝勝負〟をかけた時全力を出しきる韓国、固くなる日本。この差がまたしても露れた、といえるだろう。

抜群、金成憲の展開力

第2戦、中央大附属高（東京代表）との試合は24日午後1時から行われた。審判＝嶋田新太郎、佐野和夫、観衆約一千

東亜 19（9—4、10—6）10 中大附属

【中大】	得		【東亜】	得
田村	0	GK	姜正炫	0
蒲生	1	FP	車聖福	4
大熊	4		朴永甲	2
佐藤	1		李鍾七	3
小林	2		李正陽	2
宮川	1		金成憲	7
青山	0		金奉謙	1
坪子	1			
大林	0			
原	0			

19（3）7MT（2）10

○……技巧では非凡なものをもつ中大付も東亜の変化に富んだ攻撃には一歩も二歩もゆずった湯沢よりものびのびと戦ってはいたが、東亜のゴール前での素早い動きにつけぬ場面が多く始めから受け身だった。

○……後半7分ポストからの反撃で7—9までせまったが、東亜もすぐ立ちなおり特に13分金成憲のサイドから見せた曲芸的なシュートは圧巻だった。2日間を通して金成憲の快技はこのシリーズのハイライトであり、ジャンプ力と粘り腰を活かした展開力は〝国際級〟だ。日本勢には「勝負への執着心の差」という反省が今年も厳しく刻みつけられた。

東亜高来日メンバー

			cm
監督	李善行		
コーチ	張裕文		
GK	李向儁	1年	177
	姜正炫	2年	176
FP	車聖福	3年	182
	金得哲	1年	170
	朴永甲	3年	175
	金奉謙	3年	171
	李鍾七	3年	173
	李正陽	3年	172
	金成憲	3年	168
	曹基植	3年	170
	白南哲	1年	171
	朴星泰	1年	173

第5回 日韓学生親善大会報告（上）

親善試合より帰りて

団長　西　敏郎

第五回日韓親善大学ハンドボール大会出場の全日本学生選抜選手団は四勝一分の好成績を土産に七月十日午後六時羽田に於て無事解散致しました。出発帰着に際し御多忙中御送迎下さいました協会並に学連関係者の皆様に対し選手団を代表致しまして厚く御礼申し上げます。

今回の僅か十日間の遠征で韓国のハンドボール界を云々する事は適当ではないと思いますが試合を通じ或は関係者と話し感じた印象を述べ何等かの参考になれば幸と存じます。

◇各試合の経過　第一戦（全円光大戦・全州・七月四日）

コートが狭いうえ観衆がゴールネットの所迄一杯だった。試合は大江の先行にて始り十分迄は一応互角にセリ合うも以後フォーメーションプレーで着々リード、全円光大は個人技多く圧勝と思われたが、後半連続得点されタイム直前遂に同点とされ引分ける結果となった。我々役員選手共々敗戦より口惜しいと残念がったが矢張り心の隅に前半の圧勝出来るという甘さが有った事は否定出来ないと思う。「勝者とは全力を振って最後迄勝ち抜く者をいう」と選手に注意する。

第二戦（円光大戦・ソール・六日）

ソールの奨忠体育館もコートが狭く日本は得意の速攻が使えず前日の試合の経験を生かし前半よりスパート、後半も力を抜く事なく確実に得点を重ね1勝をあげた。

第三戦（慶熙大戦・ソール・七日）は奨忠体育館で行われる。前日大勝した為か全くの苦戦、前半の四点差は苦しく全くの敗戦ペース。後半起用した伏兵中村の連続三点をあげる活躍がなければ危かった。慶熙大には三人のナショナル・プレヤーが居り体力・技術共に優秀。氷海のポストが決ったのは実に20秒前で全く奇蹟の逆転勝ちを収める事が出来た。

第四戦（成均館大戦・ソール・八日）昨年来日したチームより三名程卒業者を出したというものの試合開始後直に先行され前日の慶熙大戦同様全く苦しい試合となる。後半、荒井の起用が図に当り彼の巧技で失点を挽回、一同元気付き終了一・二分前に同点としタイム直前大江が決勝の一点を決め辛勝。

第五戦（韓国大学選抜軍戦・ソール・九日）相手チームはナショナル・プレヤーがほとんどで、前二日間の試合振りから最終戦に勝つ事は大難事と思われた。事実またしても前半七―五とリードされる。後半もその差は縮まらず二分前のランプのついた時も十五―十四と一点差、全くの苦戦だったが氷海が決めて同点、続いてまた決めリード相手が時間がなく半端飽きらめた所へ大江が決めて二点差にて最強チームを降した。

◇韓国選手の印象　体力的には極めて優秀であり動きは早く瞬発力並にジャンプ力又特に強肩でそのスナップ・シュートには威力が有る。基礎技術に忠実で我々が勝ったと決して軽視出来ない強敵だ。私が泰陵の選手村にて韓国体協の球技強化部長より聞いた所に依ると「現在三十名のナショナル候補が居りその七〇％が大学の現役であり、今度の我々との試合の結果を最終資料としてナショナル選手を決定する」との事、このシリーズに備え二ケ月間の特別練習も行ったともいっていた。我々が今回斗った選手の内十名近い者がナショナル選手であり、それを考えれば混成チームであり乍ら全日本学生は実に最後迄良く斗ったといえる。特に監督、コーチの選手起用の見事さ又それに答えた選手の根性、実に充実した試合内容であり成績といえる。

最後に韓国ハンドボール関係者協会の方々又対戦校の関係者、審判員、そして多くの観衆皆帰国迄本当に親身も及ばぬ親切と誠意を以って我々を遇して呉れました。今後日韓両国が隣国としてアジァに於て手を取り合って行く時両国の将来の幹部となるべき若き世代の大学生が本当にスポーツを通じ御互を理解し信頼し合う事が出来るとは素晴しい事です。この親善大会が年毎に益々盛大になる事を切願して帰国の報告と致します。

（全日本学連会長、日本協会副会長）

◎……遠征成績……◎

全日本学生	15	8―3	7―12	15	全円光大
全日本学生	21	9―4	12―4	8	円光大
全日本学生	17	4―8	13―8	16	慶熙大
全日本学生	15	4―6	1―7	13	成均館大
全日本学生	15	9―10	6―4	14	韓国学生選抜

厳しい条件下の韓国球界

総務役員　藤松　博

7月11日、大韓ハンドボール協会専務理事、朴応喆先生をはじめとする多くの韓国協会関係者と、金浦空港のロビーで日本選手団の一人一人が別れを惜しんでいた。

10日間のフィナーレともいうべき、団長西氏の挨拶がはじまったが、ほとんど言葉にならなかった。声を詰らせて、帯在中の誠意あふれた韓国協会関係者の取り計りに西会長も、感激のあまり、御礼の気持が言葉にならなかった様だ。「皆さん、本当に種々とありがとうございました。……クックッ……」絶句。

東洋の隣人、兄弟の国としての韓国の方達には、こうした西会長の言葉にならない言葉で総てが語りつくされ、理解していただけたと思います。われわれ選手団全員がそうであった様に。

日韓学生親善の交歓事業も回を重ねて、五回目となった。この間来日する学生チームに日本側は、今回吾々がうけた様な、あたたか

い歓迎をしたであろうか。
　七月一日、金浦空港に、協会関係者の出迎えをうけてから、離韓の瞬間まで、それこそかゆい所に手のとどく様な接待であった。私事を投げうって、協会関係者の多くは吾々選手団の為につくして下さった。それは決して、派手なものでは無かった。しかし、その行為の一つ一つに礼節があり、情のこもった配慮があった。こうした想い出が選手団長西敏郎氏の挨拶が別れを惜む涙にしたものだと思う。
　ところで、朝鮮動乱以来の韓国は、今だに戦時体制は解けていない。韓国を取りまく国際情勢、軍事力からの圧迫をうける経済情勢など今日の韓国の抱える問題は、非常に多い様にうかがえた。
　こうした問題は直ちにまた、韓国ハンドボール協会の抱えている問題へと短絡する。韓国協会関係者の最大の悩みは、ハンドボール技術の進展が、年令制限を国家的見地から、うけざるを得ない点であろう。即ち兵役義務の問題である。20才からの3ヶ年間の徴兵はハンドボールスキルのレベルアップに大きな壁として立ちはだかって来る。韓国ナショナルチームの主体が、大学現役選手に依らざる

韓国チームの印象

監督　中沢重夫

　NHK杯全日本選抜を終えて数日にして日本を発つというあわただしさでした。滞在日程も一日から三日迄なにもないという練習の明け暮れに随分たいくつな思いを考えたのですが結果的に見ると異国での生活、環境、まったくカラクテロに入らぬ食事、飲水（全てコーラに徹しさせた）等生活面での〝なれ〟の為には非常によかったと思います。それにも増して選抜というハンディを背負っておる我々にとって数少い練習量がここで補えた事はありがたい事でした。出発に先きだち相手を知ろうという事に全力を傾け、今迄の交流の内容、我々より前に遠征した人々の意見を聞き、ある程度の予備知識を持って、それを三日間の練習に、そして又一戦一戦終るごとに卒直に反省しあい常に全力を傾けた所が、今回の遠征の試合成果を見たものと思います。本当によくねばりました。最後の最後迄、選手達は本当に立派だったという他ありません。韓国ハンドボール界は総力をあげて我々を待ちかまえ必死でナショナル候補を数多く出し、使える選手はどれか、これからアジア予選に向けて何かをつかもうという姿勢、韓国選手も我こそはという真剣な態度、それ故に粗暴なプレーも生れ以後代表選手の資格をハク脱された者も出るという〝的〟一つに向けての体制は日本で想像していた以上のものをうかがわせた次第です。韓国選手のシブトサボールに対する執着心はすばらしいものがありこれは特に見習わねばなりません。
　攻撃は出足が非常によくなだれこみの早い攻めが多く、それ以後セットオフェンスは逆にじっくり攻め、パスワークもダブルポストを多用しどちらかというと横に流れがち、ここから攻めの動きが始り、横に走りながら手首を使って打ってくるシュートは横だからというスピード感とは大きく違い、早いモーションからの強れつなシュートは意表をつかれます。
　ミドルはやや遠くからクロス気味に切りこみ、予想していてもタイミングモーションが早く、ジャンプが前傾姿勢より直立姿勢気味ジャンプですので、より早いつめを必要とし、スピードがあります。（これで大部やられました）。スカイプレーを多用しますが45度からの投げ入れられるものが多くみられます。
　デフェンスはフットワークがうまく、あたりはきれいですが全般的に一線気味にやや巾広く陣をしきます。シュート・カットのタイミングもよく、只サイドを使っての攻撃は少い。以上の様なプレーが生まれるのも韓国の体育館の実情がせまいという所から生れたものと考えます。
　我々のもっとも得意としながらもほとんど使えずこれが使えたらもっと多彩な攻撃が出来たのにと残念なのが速攻で、狭いゆえに今回は出ずじまい、全てセットプレーに終始したのが実情でした。従って正規のコートでしたらと歯がみする場面が多々あった事も申しておかねばなりません。
　ルールも解釈のちがいから生れる判定の規準の違いが若干ありますがそんなに沢山という程のものはありません。全般的に日本を追いこせムード、意識は非常に強く、積極的で今後の発展に大きく注意せねばならないでしょう。

（全日本学連理事）

を得ないのも、そうした理由にある。大学選手は、流動的であり、必らずしも全面的に依存出来ない点は大きな悩みの様に思われる。

そうした制約下では当然、韓国協会の重点施策が、大学チームの強化に傾けられるのは当然の事の様に思われる。伝統的な強さをみせる成均館大学、新星・慶熙大学、地方の雄・円光大学など優れた選手の選手強化育成に全力をそそいでいる様だ。

今回対戦の各チームは、単独チームとして日本選抜チームに堂々と四つに組み、損色の無い試合を展開している。自分達こそ、韓国ハンドボールを背負って立っているのだという自覚と自信の程がうかがえた。選抜と単独という条件の相違はあるが、あなどり難い力を潜在している点は日本学生ハンドボール界としても考える必要がある様に思われる。

韓国の大学のこうした巾の広い層の厚い潜在力は、兵役という動かし難い国家的制約の中での苦悩の結果、大学チームを項点とする高校、中学、小学聯盟の支援に負って成り立つ様な構成を作らざるを得ない結果に立たされる。即ち協会内部の構成の主力を、中高聯盟に置きかえ、中学、高校の発言力を高め、大学チーム力の養成を中学チームから一環して育成強化せんとする動きの様にうかがえた。協会設立当時の主体であった、大学関係者が、新しい中高体聯盟の若い指導者と大巾に交代している姿にそうした動きがうかがわれる。

こうした機運は更に小学校にまで及ばんとしている。ソール市中の奨忠体育館での四試合の観客の半分近くが、市内の小学生のファンで占められていた点注目に価する。

こうした推測は、前座試合に具体的結果として現われていた。高校チームとしては、塩光商高、沖岩高、第一高、春川工高などが姿をみせたが、その技術水準は、非常に高い。日本高校チームも決して安閑としていられない様な気がした。

また中学チームでは、東大附中聖水中、新竜山中、京西中、霊泉中、崇実中、鳳永女中、聖満女中聖貞女中、徽慶中、光成中などが参加していたが、体格、体力はともかくその技術的水準は、日本の高校チームに匹敵するものをもっている。中高聯盟の孫鳳國先生の地味な努力が、結実しつつある様に思われた。

こうした動きは、必らずしもソール市近辺だけでは無く、韓国全土に及んでいる様だ。高速道路から見る、片田舎の小中学校の校庭にハンドボールポストが必らず置かれていた点から、ここ数年先の韓国の力は、日本のそれをしのぐものになるであろう。

以上、10日間での遠征を通して韓国ハンドボール界をながめてみたが、小学校から大学までの学校体育を中心とするハンドボールチームの育成強化の方策に傾きつつある姿は、建設途上にある大韓民国の姿にも以て、着々と、理郷に向けて結実するであろう。

さてこうして眺め考えるにつけ定例化されている、日韓交流の親善ハンドボール大会の取り扱いにつき、日本学連もその認識を改める必要を感じる。即ち、韓国協会としては、大学チームのあり方を前述の様に協会内での最高のレベルとして取り扱えば、自然、総力をそこに傾けるであろう。それに対し、日本側が、現在日本協会内に置かれている学連と同じ感覚で事に処しては、礼を失する事になるのでは無いかと思う。

少くとも学連としては、アマチュアリズムの範囲内で、最大の努力をし、遠来の兄弟を迎える様な態度を忘れてはならないと思う。

(東海学連理事長)

5戦を顧みて

◇第1戦 松原 光三 (FP・日体大)

全州高校体育館に着くと、小学生三百人余りが我々のマイクロバスをとりかこむ。興味津々といった目はいささか不気味。試合前の練習時も子供たちが我々を輪になって囲み、練習よりもこの子たちを散らすのに骨をおる始末。スタンドも満員(約二千)、天井の柱の鉄骨にまでよじ登っており大変な熱気だ。

全円光大は韓国特有のパスモーションからのクイックパスや早いタイミングのシュートで攻めて来たがパスが乱れ我々もコートが狭いため得意の速攻が出ない。しかし15分すぎからチャンスを巧く活かして前半8−3とリード。この点差に油断したわけではないが後半に入って全円光大のサイドからの攻撃や、デイフェンスの詰めの甘さをつかれて追いあげられ15−15の引き分けにもちこまれた。

国際試合である以上審判の相違コート条件、場内の雰囲気、記録員の計時など〝相手チーム〟以外のあらゆる環境の違いを考えて試合に臨まねばならぬことを改めて痛感、その上で勝利を得るたくましさは斗志以外に求められまい。

◯第2戦 松井 昭二 (FP・同志社大)

第1戦の経験で日本の実力が活かせた、といえる一戦だった。

前半はロングシュートがよく決まりデイフェンスの出足もよく15分まで円光大を零封した。しかし前半20分を過ぎるあたりから疲れのためか帰陣が遅くなり、与えずもかなの失点があった。

後半に入ると再び攻守ともに好調となり10分13−6と引きはなし楽な展開となった。円光大は第1戦でみせたような粘りもなく、たまにつかむ得点機も日本のGK陣の堅守に阻まれて元気をなくしたようだ。日本での試合と違い、ソウルのこの体育館もコートがせまい。日本の学生界の主戦法は速攻であり、それが出せないとなるとセットを多用しなければならなくなる。混成軍だけに今後の試合のポイントはその面での〝呼吸〟にかかろう。試合の途中、落雷で停電、一時中断という珍しいケースがおこった。

◯第3戦 明石 雄次 (FP・芝浦工大)

15分1−3とされた点差を我々が追っての進行。どうにも点がとれない。速攻時のパスミス、セットでのコンビの乱れが相次いでハーフタイムには4点差をつけられた。しかし後半に入るとすぐ松原君、大江君がシュートを決め、これでかなり落ちついた。ところがあと2点がなかなかとれない。20分14−14と追いついたのだが慶熙大はさすがに名門といわれるだけであってすぐ体制をととのえて反撃をみせ21分、22分に失点。まっ

たく苦しくなったが24分7MT、28分佐々木君のゴールで16―16、そして終了1分前松原君のシュートで初めてリードを奪い、その1点を守り切ってやっとの思いで勝つことができた。
それにしても接戦になった時の観客の熱狂的な声援ぶりには大変驚いた。知らない土地に来てしかも馴れないコート。かってない条件下のゲームは私にいろいろなことを教えてくれた。この貴重な経験を残り少ないハンドボール生活に少しでもプラスにして活かしていきたいと思っています。

○第4戦

川口 啓一（FP・名城大）

相手の成均館は昨夏来日しているのである程度手の内を知っているので我々には一番やりやすいチームに思われたが、前半はまったくチグハグな攻めで自滅、一方成均館は得意のスカイプレーとミドル攻撃を巧く混ぜあわせた戦法で日本のゴールを割った。このあたり混成の短所と単独チームの長所がはっきり現れたといえよう。
後半に入って日本はようやく落着き、相手の攻撃をマークしてつぶす一方、攻撃陣もロングシュートやポストからの得点が確実に決まり出し11分9―9、そのあとせりあいをつづけ25分すぎからは日本がペースを奪い26分13―13、27分14―13、29分15―13で逆転勝ちをおさめた。
成均館はチームプレーのまとまりは昨年以上に思えたが、主力の大型選手の卒業でスケールは一まわり小さくなった感じである。

○第5戦

佐藤 要二（FP・中央大）

最終戦、どうしても勝ちたい。しかも相手は韓国学生界のトッププレイヤーで編成した選抜軍、半分以上がナショナルプレイヤーだという。意地でも負けられない。
試合は我々のスローオフで始まったが、韓国はホームコートの利を活かして素早い攻撃をしかけて以来、強引なポストプレーや混成とも思えぬ鮮やかなコンビネーションによるスカイプレーで得点をあげた。
我々も再三得点機はあったのだが、ポストプレーへのこだわりと攻撃展開が小さすぎ1点差つけられ前半終了。
後半になると我々の攻撃にリズムが乗って来だし、1分同点、10分に12―11と初めてリード点をあげ、これに勢いを得てポストロングなどを決めた。韓国もさすがによく粘り、我々はディフェンスの僅かな連けいのミスをつかれ23分には13―13とされた。しかし日本も最後の力をふりしぼって25、27分に2点をあげ、韓国の反撃を29分の7MTだけにおさえて最終戦を苦戦ながら勝利で飾ることができた。（主将）

遠征日誌

▽7月1日 羽田を飛びった我々の飛行機は韓国への期待とわずかな不安をのせて13時すぎ金浦空港着。「全日本学生選抜軍歓迎」の歓迎幕にあらためて斗志が湧く。空港から宿舎（泰陵選手村）までのバスで市内を通る。ソウル市街はそれほど大きくないが店がキッチリ並んでいる。（奥田祥一・マネジャー、日体大）
▽2日 6時起床、どんよりとした天候。朝から肉料理。13時から「景福宮」を皮切りにソウル市内観光。原色のきらびやかさの中にいうにいわれぬ憂愁さがただよう。南山からのパノラマがくもり空で全望が眺められなかったのは残念。夕食前に練習。（奥田）
▽3日 8時からセットオフェンスを中心とした練習。話には聞いてきたがコートはせまい。コーチ陣から韓国の判定解釈の説明がある。フリースローから直接シュートを射った際、ディフェンスに触れればアゲインをとられる、という。（森友通夫・GK・大経大）
▽4日 高速バスで第1戦の行われる全州へ。快適。昼食は熱い石の板の上での焼肉料理。試合場は全州高校体育館、日本でもよく見られるような施設だが、信じられないほどの数の観衆がつめかけて超満員。我々を小学生ファンがとりかこみ、一躍スターになった気分だ。ランニングを始めたあとはコーチ陣が身動きできないほど囲れ、もてあまし気味の江名さんの表情がこっけいだった。（森友）
▽5日 高速バスでソウルに戻る。やはり疲れるのか、ほとんどの者が寝ていた。道路はすばらしく整備されている。昼食をソウル市内でとり選手村に帰る。18時から韓国協会によるレセプション。第1日以来、韓国のかたたちの行きとどいたもてなしには本当に感謝したい。楽しいひとときをすごして21時宿舎へ。（夏目真治・FP・中京大）
▽6日 第2戦の日。朝の練習から全員気合いが入っていた。試合は15時10分から。会場は韓国の屋内スポーツの殿堂である奨忠体育館。円型のスタンドに囲れたコートはハンドボールにはいかにもせまい。（夏目）
▽7日 午前中、コンビネーションプレーの打合せをする。第三戦の相手・慶熙大は韓国きっての名門。試合は大接戦から日本の逆転勝ち、ムードは最高。選手村に戻っても久しぶりにゆとりがでる。夜のミーティングでますます斗志が湧く。緒戦の引き分けは口惜しいが、もう1敗もできない。（中村博之・FP・大阪体大）
▽8日 起床後軽く練習。第4戦の相手・成均館大は去年手合せしている。タイムアップ寸前リードを奪って3勝目。終って成均館大を訪れる。丘の上からソウル市内が一望できる。絶景だ。レセプションでは昨年来日チームの世話をした奥田君（学連委員長）が圧倒的？にもてた。（中村）
▽9日 最終戦。今日負けたらいままでの成績がなんの意味もなくなる。試合前、中学男子の前座戦を観た。日本の中学生よりスピード感があるしセットも上手いようだ。試合前のミーティング、この試合のために遠征してきたのだという実感が湧いてきた。点差は1点だったが誰も「負ける」などとは思わなかったろう。試合を終って日本選手団、韓国協会役員、選手で〝ほたるの光〟を大合唱。（佐々木健一・FP・中央大）
▽10日 空港に着くと雨が激しくなり、そのなかで韓国協会の人たちがずぶぬれになって手を振って呉れた姿が忘れられない。この10日間、私たちにとって大変有意義な、かつまた厳しい試練の日々であった。（佐々木）

おことわり 記事ふくそうのため馬淵、氷海、荒井、大江、川上五君の原稿「韓国遠征総評」は次号に掲載いたします。御了承下さい。

★☆★☆★☆★☆★ 海外トピックス

世界女子欧州予選

―――杉山　茂―――

波乱、ソビエトの失格

12月11日からオランダで開かれる第4回世界女子7人制選手権大会のヨーロッパ地域予選は4月末から各地で5カードが行われた。

予選を通過したのは東ドイツ、ルーマニア、デンマーク、西ドイツ、ノルウェーの5ケ国。

注目のルーマニアーソビエト戦は有力とみられたソビエトがモスクワのホームゲームで14―11と快勝、余勢をかうかにみえたがルーマニアは第2戦に奮起、13―10で雪じょくし、得失点差もタイとなった。このため決勝戦が第三国で行われることになり、5月9日ウイーンで対決、期待どおりの接戦から終盤ルーマニアが地力を示して快勝、本大会への出場権を握った。

また、優勝候補の筆頭にあげられている東ドイツは強豪チェコに連勝、評判どおりの実力を示している。

本大会は予選を通過した国とハンガリー（前回優勝）、ユーゴ（同2位）、日本（アジア大陸代表）、オランダ（開催国）の計9ケ国によって争われるが、本誌既報のとおり、日本は予選リーグA組で西ドイツ、デンマークとまず対戦することが決まっている。

デンマーク 11―8 ブルガリア

ブルガリア 13―12 デンマーク

西ドイツ 12（8―2、4―2）4 スウェーデン

得	【西ドイツ】		【スウェーデン】	得
0	アイッヒナウアー	GK	ヘルスデット	0
0	ジーベルト	FP	カールソン	3
0	ミルター	FP	ノルストローム	1
2	ホエイ	FP	ハクンソン	0
6	レイトウェイスナー	FP	ギョラント	0
2	ウエルツ	FP	メドハマール	0
0	ハーケンバッハ	FP	バージタ	0
0	キンド	FP	エツカーマン	0
1	ヤコブ	FP	ペッターソン	0
1	シュキース	FP	カンペ	0
0	ガエデイック	FP	バーマン	0
12				4

○……西ドイツの連勝は順当といえる。出場メンバーのうちGKアイッヒナウアー、EFミルター、ヤコブ、レイトウェイスナーらは6年前のメンバー。ミルターは24年秋来日した銀髪の強シューター。

デンマークはブルガリアの食い下りを許し、辛くも2点差で出場権を得た。詳報は入手していないが、主力は前回のティーンエイジャートリオ・ハンセン、スティーン、プウルセンらではなかろうか。前回17才で登場したクリスチャンセンも今年は23才。成長していると思う。

西ドイツ 14（10―4、4―4）8 スウェーデン

得	【西ドイツ】		【スウェーデン】	得
0	メンツエル	GK	ニールソン	0
1	ジーベルト	FP	カールソン	1
1	ミルター	FP	ノルストローム	3
3	ホエイ	FP	ハクンソン	0
0	シュキース	FP	ギョラント	0
4	レイトウェイスナー	FP	メドハマール	3
1	ハーケンバッハ	FP	バージタ	1
0	ウエルツ	FP	ヤコブソン	0
1	キンド	FP	ペッターソン	0
1	ヤコブ	FP	カンペ	0
2	コスビ	FP	バーマン	0
14				8

○……ルーマニア対ソビエトは本大会の決勝リーグとしても充分に通用するといわれるだけの好試合を演じたようだ。

若さに優るルーマニアの快勝で終ったが、女王の座（注・第2回優勝国）奪回にこのあとどのような強化を進めるか興味深い。6年前のメンバーのうちGKブザス、シュラムコが健在。

ソビエト 14―11 ルーマニア

ルーマニア 13―10 ソビエト

ルーマニア 16（7―5、9―4）9 ソビエト

得	【ルーマニア】		【ソビエト】	得
0	クリモブスキー	GK	ソコロバ	0
0	ブザス	GK		
2	ソスク	FP	スカバノーバ	5
4	アルギール	FP	K・ファ・サン	0
1	リー	FP	ツルシーナ	0
0	バイコヤス	FP	オステインスカヤ	1
1	シュラムコ	FP	バラノーバ	0
2	ミクロス	FP	ボブルース	2
5	メツゼンラス	FP	シュビーナ	0
0	マギヤリィ	FP	ゴンチャローワ	1
0	オアンスチャ	FP	マシューバ	0
1	イバドーラ	FP		
16				9

東ドイツ 14（8―4、6―4）8 チェコ

東ドイツ 11（5―2、6―5）7 チェコ

○……本大会の優勝候補・東ドイツの試合ぶりに注目が集った。相手のチェコも第1回優勝のほかこれまで4位以下に落ちたことのない強豪だが東ドイツのたくましさの前には一たまりもなかったようだ。特にエース、ホクムスの活躍は圧巻、第1戦で8点、第2戦で4点を叩きだした。その快腕は〃女王蜂〃の名を揺るぎないものにするだろうと早くも評判である。

▽第2戦のメンバー

得	【東ドイツ】		【チェコ】	得
0	ゾベル	GK	ブレソーバ	0
0	ロテ	GK	ビブローバ	0
2	クゼレーク	FP	V・ブルノーバ	0
1	ウインクレール	FP	セルベンコーバ	3
0	ヘルビイグ	FP	ガルボーバ	0
3	ブラウン	FP	カーネローバ	2
0	ヤンカー	FP	カバロブスカ	0
0	コク	FP	マトロショーバ	2
0	シュネペル	FP	ペカローバ	0
4	ホクムス	FP	L・ブルノーバ	0
1	カント	FP	コソリノーバ	0
0	ミカエルス	FP	スタルケオーバ	0
11				7

ノルウェー 12―9 ポーランド

ノルウェー 11―6 ポーランド

○……ノルウェーは宿願の初出場である。ポーランドは第1回4位、第2回7位、第3回8位とジリ貧ついに今年は失格の憂き目にあった。

○……なんといっても話題はソビエトがルーマニアに予選で破れたことである。今大会優勝の最短距離にあるとされたソビエトが、ルーマニアに破れるとは誰も考えなかった。かつて東ドイツがなめた〃悲運〃がソビエトに移った感がある。

〔参考・前回順位〕①ハンガリー②ユーゴ、③西独、④チェコ、⑤デンマーク、⑥ルーマニア、⑦日本、⑧ポーランド

台湾から少女チーム（台南県広山小）来日

名古屋岐阜で2戦　たくましく確実な攻守

台湾の小学生女子ハンドボールチーム・台南県広山国民小学校が7月28日から31日まで名古屋に滞在し、名古屋、岐阜で地元の少女チームと交歓試合を行なった。同チームは今春3月の全台湾国民小学校ハンドボール選手権大会の優勝校で韓国遠征の帰途、名古屋に立ち寄ったもの。一行は役員4、選手13名でレギュラー選手の平均身長は154cmの長身ぞろい。

4年生の時からハンドボールを始めたというだけあってボールがよく手につき、無理のない試合運び、ノーマークをつくっての確実なシュートなどで圧倒的な強みをみせた。

また、6年生の12名は1年生からずっと同級生で息の合った多くの好プレーやチームマナーのよさが印象的だった。

名古屋、岐阜で各1試合行なったが、名古屋の愛知ハンドボール教室チームも岐阜の長森スポーツ少年団も結成されて、まだ日が浅いため充分な練習を積んでおらず対等に戦えなかった。同チームを宿舎に訪れていろいろと聞いてみた。

【林　正信＝愛知県小学生ハンドボール教室指導者】



日本を訪れたもっとも可愛いらしい外国チーム!!
台南県広山小学校の選手たち（7月28日・名古屋）

二千校の中のナンバーワン

台湾からかわいらしい小学生女子ハンドボールチームがやって来た。どの顔も練習でまっ黒に日焼けしている。陽気で、歌がとっても上手。

台湾協会理事長陳金樹氏をまじえて台湾のハンドボールの現状や日本での印象等を語ってもらった。（敬称略）

林　台湾では、小学校でハンドボールがどの程度行なわれていますか。

陳金樹　3年前から小学校教育課程の体育の授業の中にとり入れられ、現在どこの小学校でも行なわれています。ハンドボールが教育課程にはいった理由として、①狭い場所でもやれる。②走、跳、投を含んだ運動量のある種目である。③一度に多くの児童がやれる④経費がかからない。等が上げられる。

林　日本の関係者にとってはうらやましい話です。広山国民小学校の女子チームはどんなチームですか。

陳金樹　3月に全台湾国民小学校ハンドボール選手権大会が行なわれ、2千余校の全国民小学校が参加し、その時に優勝した名門チームです。

林　日本では、小学生のハンドボールチームが外国へ遠征することは、夢のような話ですが。

陳金樹　台湾では、どんなチームでも技術的にすぐれていれば、外国へ遠征してもよいことになっています。しかし、旅費などは全部自費です。今回の遠征も自費で来ました。

林　チームの皆さんにお聞ききします。皆さんの学校はどんな学校ですか。

選手A　台南市からバスで1時間30分ほどの所にある児童380人、学級数8の学校です。私たちのクラスには男23人女27人います。

陳金樹　台北市には、児童数が1万人以上もいる小学校もありますので、広山小学校は、台湾では最も小さい学校の中にはいります

林　皆さんは学校でどんな遊びをしていますか。

B　ドッヂボールや色々なゲームなどをしています。

林　きのうハンドボール教室の人たちと、交歓会を持ちましたが楽しかったですか。

C　全員がいっしょになってやったドッジボールが楽しかった。

D　台湾では、ドッジボールは男女別々にやって遊んでいます。

E　これからもハンドボールを続けていきたいと思います。

林　どうもありがとうございました。

日・台少女交歓試合

▽第1戦（7月28日・名古屋）
広山小28（15―0 / 13―0）0 愛知ハンドボール教室

▽第2戦（7月30日・岐阜）
広山小34（17―5 / 17―6）11 長森スポーツ少年団

広山小学校来日メンバー

団長	呉	維樵	（台南県議員）
役員	陳	水道	（広山小学校校長）
〃	陳	金樹	（台湾協会理事長）
監督	呉	清良	（広山小学校教員）
選手	翁	錦秀	（6年・152cm）
	呉	麗英	（6年・156）
	（主）陳	金燕	（6年・156）
	翁	月苕	（6年・155）
	呉	月素	（6年・155）
	呉	美女	（6年・155）
	呉	月眉	（6年・147）
	呉	楊	（6年・156）
	呉	美香	（6年・152）
	呉	玉妹	（6年・143）
	呉	玉惜	（6年・151）
	呉	麗淑	（6年・146）
	呉	素恵	（5年・154）

大阪体大、逆転で初優勝飾る

西日本学生　女子は甲子園大が2連勝

第11回（女子第2回）西日本学生選手権は7月14日から18日までの5日間大阪府立大グランドに東海、関西、中四国3学連から男子30女子5校が参加して開かれた。

男子はトーナメントで優勝が争われベストエイトは関西4、東海中四国各2の〝分布〟。このなかではやはり関西春季で最上位を占めた大阪経大と大阪体大が安定したチーム力を示し、予想どおり両者の決勝から大阪体大が後半得意の速攻を決めて2連勝を狙う大阪経大に逆転勝ち、初の栄冠を握った。中四国1位の松山商大は2回戦で、東海1位の中京は準々決勝でいずれも大阪体大に屈した。これまで3回の優勝を誇る同志社と関学はいずれも学期試験のため棄権。

女子は5校が決勝リーグ。甲子園と大阪体大が無キズで最終日に対戦し、甲子園がわずかに優って2連勝、大阪体大の男女優勝は成らなかった。

▽男子1回戦

広島工大（中四国） 35（17—8 18—11）19 大阪教大（関西）

立命館（関西） 24（12—10 12—12）22 大阪府大（関西）

京都工繊大（関西） 棄権 和歌山大（関西）

山口大（中四国） 26（14—6 12—4）10 大阪薬大（関西）

大阪市大（関西） 36（20—11 16—11）22 天理（関西）

名城（東海） 棄権 関学（関西）

関西大（関西） 24（17—7 7—5）12 竜谷（関西）

神戸大（関西） 15（10—6 5—5）11 甲南（関西）

桃山学院（関西） 22（11—7 11—7）14 岐阜大（東海）

京都大（関西） 27（16—8 11—10）18 追手門学院（関西）

関西外語大（関西） 棄権 同志社（関西）

大阪体大（関西） 47（26—1 21—2）3 大阪歯大（関西）

松山商大（中四国） 28（16—9 12—11）20 近畿大（関西）

大阪大（関西） 21（9—7 12—5）12 大阪工大（関西）

大経大、京工大から52点

▽同2回戦

大阪経大（関西） 52（29—2 23—2）4 京都工業繊維大

広島工大 30（18—4 12—4）8 関西外語大

山口大 20（6—8 14—4）12 立命館

名城 没収試合 大阪市立大

関西大 26（9—7 7—9：2—1 1—2：4—1 3—1）21 神戸大

大阪体大 25（15—9 10—9）18 松山商科大

桃山学院 18（8—10 6—4：2—1 2—2）17 京都大

中京（東海） 32（18—5 14—4）9 大阪大

大阪体大、中京を降す

▽同準々決勝

大阪経大 22（12—5 10—5）10 広島工大

劣勢を予想された広島工大はリードされながらも善戦、前半25分までは射程内に相手をおいていた しかし後半になると大阪経大は一気の速攻で10分には15—5と開き勝負を決めた。

名城 20（10—6 10—4）10 山口大

ダークホース同士の対戦は山口大の先制で始ったが、名城はあっさり逆転、柔島—飼沼のコンビを中心にチャンスを確実に活かして快勝した。

桃山学院 14（7—8 7—4）12 関西大

かっては関西1部の最上位にあった両校も時の流れには抗せず現在はともに2部。接戦模様から桃山は前半終了まぎわ山口の巧技でリードを奪った。関大も粘り後半6分には1点差へ追いあげたが、余裕をもつ桃山はあわてず20分11—9と開いて押し切った。

大阪体大 17（8—7 9—5）12 中京

優勝争いにひびく一戦。大阪は前半22分5—5から中村らが連続4ゴールを奪って試合の主導権を握った。結果的にはこのポイントが試合そのものも左右した。

後半も大阪のペース。中京も18分いちどは11—14まで迫ったのだが大勢をくつがえすには遅すぎた。

名城、大阪経大に惜敗
大阪体大は桃山押し切る

▽同準決勝

大阪経大 9（3—4 6—3）7 名城

得	【大経】		【名城】	得
0	森友	KG	竹内	0
0	山田	KG	高橋	0
0	佐藤	FP	桑島	1
2	橋本	FP	飼沼	2
0	牛屋	FP	福田	1
1	貝原	FP	川口	3
4	穂積	FP	石塚	0
2	奥川	FP	松井	0
0	津川	FP	江崎	0
0	福井	FP	長塚	0
0	山本	FP	佐藤	0
		FP	田中	0
9	（0）	7MT	（0）	7

（審・楮谷・堀）

名城は1分桑島のゲットで巧く滑りだしたが大経大もすぐ反撃、13、16分穂積の連続ゴールで5—3と優位に立ち、そのあと後半8分までに3点をつみ重ねた。粘る名城は後半20分6—8と追いあげたが逃げ切られた。

大阪体大 23（13—5 10—3）8 桃山学院

得	【大体】		【桃山】	得
0	逢坂	GK	西	0
0	宍倉	GK		
0	中田	PF	山口	1
2	桐山	PF	森本	0
0	坂本光	PF	岡崎	2
1	中出	PF	堀本	1
2	藤井	PF	岡山	1
2	丸山	PF	花	0
5	中村	PF	山本	1
4	白柳	PF	木下	1
3	坂本和	PF	中川	1
4	福永	PF		
23	（0）	7MT	（1）	8

（審・橋谷・前田）

1部2位と2部5位。最後ははっきり力の差が現れたが序盤は桃山の健斗で一進一退だった。前半20分すぎ大体大は4—3から中村白柳らの活躍で一気に10—3と引きはなし、後半も圧倒の試合ぶりを示した。

▽同3位決定戦

名城 25（13—4 12—3）7 桃山学院

大阪経大、2度のリード空し

▽同決勝

大阪体大 14（9—6 5—6）12 大阪経大

○……かっての関学×関大、関学×同大などに代る関西学生界の新しい看板カードだ。

出足は大阪経大のフローター津

得	【大体】		【大経】	得
0	逢坂	GK	森友	0
0	宍倉	GK	山田	0
0	中田	FP	佐藤	0
0	中出	FP	橋本広	2
2	藤井	FP	牛屋	0
5	中村	FP	貝原	1
4	白柳	FP	穂積	6
0	坂本光	FP	奥川	1
0	丸山	FP	津川	2
1	福永	FP	福井	0
2	坂本和	FP	山本	0
0	桐山	FP	橋本光	0
14	(1)	7MT	(1)	12

（審・堀　楮谷）

川、穂積のロングシュートが決まり優勢だった。

後半、12分10—10から勝負は終盤にかかるという決勝にふさわしい展開となったが、15分をすぎてから大体大の速攻が決まり、さすがの大経大も追い切れなかった。大経大は要所で得た7MTを2回落としたのがひびいた（伊谷勝幸・関西学連委員長）

甲子園—大体大に〝結着〟

▽女子リーグ

		前半	後半		
甲子園（関西）	21	13—1	8—0	1	大阪教大（関西）
大阪体大（関西）	22	13—1	9—1	2	大阪薬大（関西）
中京（東海）	17	7—0	10—1	1	大阪教大
大阪体大	24	12—2	12—3	5	大阪教大
甲子園	18	13—2	5—2	4	大阪薬大
大阪体大	17	10—0	7—3	3	中京
大阪教大	12	6—2	6—4	6	大阪薬大
甲子園	14	6—2	8—1	3	中京
中京	13	9—3	4—0	3	大阪薬大

甲子園 6（1—0、5—4）4 大阪体大

得	【甲子】		【大体】	得
0	柿田	GK	平谷	0
0	楠	GK	信原	0
2	辻	FP	岡	2
3	乗正房	FP	堀川	0
1	和歌	FP	周防	0
0	白井	FP	玉岡	1
0	継田	FP	山本	1
0	宮田	FP	花谷	0
0	北川	FP	山本	0
0	宮方	FP	寺脇	0
0	上島	FP	高木	0
		FP	桜井	0
6	(1)	7MT	(0)	4

（審・梶川　中江）

【順位】①甲子園4戦全勝②大阪体大3勝1敗③中京2勝2敗④大阪教大1勝3敗⑤大阪薬大4敗

〝決勝〟の甲子園×大体大は春季リーグで引き分け、この大会に結着をかけていた。予想どおりもつれた展開となりわずかに前半20分2—2から乗正房、辻の連続ゴールでペースをつかんだ甲子園が押し気味に試合を進めそのまま押しきった。（伊谷）

東北大、2年ぶりの優勝

国立8大学大会

第15回国立8大学大会（国立大学総合体育大会）は7月21日から25日まで大阪大でリーグ戦を行い東北北海道学生1位の東北大が京大、神大などをおさえ2年ぶり4回目の優勝を飾った。

東北大	26—11	大阪大
京大	28—18	北大
東大	24—21	九州大
東北大		九州大
京大	12—10	神戸大
北大	32—19	東大
東北大	26—15	名古屋大
京大		九州大
神戸大	21—7	名古屋大
大阪大	27—14	東大
北大	25—13	九州大
東北大		東大
神戸大	14—7	大阪大
京大	25—14	東大
京大	24—13	名古屋大
神戸大	22—9	九州大
東北大	26—17	北大
東大	20—11	名古屋大
東北大	12—11	京大
大阪大	15—12	北大
神戸大		北大
大阪大	16—10	九州大
神戸大	27—13	東大
北大	23—14	名古屋大
大阪大	10（分）10	京大
名古屋大		大阪大
名古屋大	25—4	九州大
東北大	9—6	神戸大

【順位】①東北大7戦全勝②京大5勝1敗1分③神戸大5勝2敗④大阪大3勝3敗1分⑤北大3勝4敗⑥名古屋大・東大2勝5敗⑧九州大7敗

北大、攻守に一日の長

道大学体育大会に初参加

充実を示す北海道学生界（東北北海道学連道支部）では7月7日からの第18回北海道大学体育大会に初のオープン参加を果たし5大学によるリーグ戦を北大体育館で行い北大が初優勝した。

北大	26—15	小樽商大
室蘭工大	22—14	釧路教大
北大	33—21	北見工大
釧路教大	27—18	小樽商大
室蘭工大	26—16	北見工大
小樽商大	21—19	北見工大
北大	30—11	釧路教大
室蘭工大	18—10	小樽商大
北見工大	21—20	釧路教大
北大	25—19	室蘭工大

【順位】①北大4戦全勝②室蘭工大3勝1敗③釧路教大1勝3敗（得失点差マイナス19）④北見工大1勝3敗（マイナス23）⑤小樽商大1勝3敗（マイナス26）

九州インカレは西南学院

九州地区大学体育大会ハンドボール競技は7月28、29日大分大体育館に14校が参加してトーナメントで行われ西南学院大が2年ぶり6回目の優勝を飾った（詳報次号）

▽決勝

西南学院 20（10—4、10—10）14 九州産業大

◇四国大学総合体育大会ハンドボール（7月・松山商大）

松山商大	37—10	愛媛大
香川大	22—9	愛媛大
松山商大	24—10	香川大

◇第10回関西大—中京大定期戦（7月13日・関大体育館）

中京 23（10—7、13—9）16 関西大

通算成績は中京大の5勝3敗2分け。

日新製鋼呉が2連勝

各地の記録

第16回中国選手権（一般男子）は7月10、11の両日島根県松江農林高球技場に中国5県の代表16チームが参加して行われた。

2連勝を狙う日新製鋼呉（広島）を山口勢がはげしく追いつめたが攻撃力に秀れた日新は準決勝、決勝とも大量点をあげて快勝、危気なく優勝を飾った。広島代表はこれで9連勝。

▽1回戦

田原外郎ク山口 15（9-6、6-6）12 修道ク（山口）

岡山大（岡山） 26（11-3、15-3）6 米子高専（鳥取）

三菱レ大竹（広島） 28（12-5、16-9）14 葵ク（島根）

徳山ク（山口） 23（11-10、12-4）14 岡山教員

武田薬品光（山口） 16（9-6、7-8）14 日本鋼管福山（広島）

日新製鋼呉（広島） 30（13-7、17-9）16 川崎製鉄水島（岡山）

田原外郎下関ク（山口） 25（11-2、14-6）8 米子ク（鳥取）

境港市役所（鳥取） 24（9-3、15-6）9 児島柏会（岡山）

▽準々決勝

田原外郎ク山口 30（15-7、15-8）15 岡山大

徳山ク 17（10-8、7-7）15 三菱レ大竹

武田薬品光 19（9-8、10-4）12 境港市役所

日新製鋼呉 24（7-6、17-8）14 田原外郎下関ク

▽準決勝

田原外郎ク山口 18（7-7、11-6）13 徳山ク

日新製鋼呉 22（9-5、13-7）12 武田薬品光

▽決勝

日新製鋼呉 31（12-8、19-11）19 田原外郎ク山口

AOK栃木、美谷クが優勝

初の関東クラブ選手権

第1回関東クラブ選手権は7月24、25の両日茨城県・土浦一高グランドに男子8県8クラブ、女子7県8クラブが参加して開かれた。

男女とも第1ラウンドの4試合で勝者を1部、敗者を2部に分けそのあとそれぞれトーナメントを行って1、2部の優勝を決めた。

男子1部は昨秋の岩手国体で活躍したAOK栃木が攻守に一日の長を見せて優勝、女子1部は美谷ク（埼玉）が決勝で有力候補の小平OG（東京）に逆転勝ちした。

2部は男子が日川ク（山梨）、女子は全神奈川。

▽男子第1次戦

三春台ク（神奈川） 25-11 霞ク（埼玉）

AOK栃木 18-9 日川ク（山梨）

甘楽農ク（群馬） 17-12 新治ク（茨城）

松門会（東京） 39-7 清水ク（千葉）

▽同2部1回戦

日川ク 28-7 清水ク

新治ク 24-11 霞ク

▽同決勝

日川ク 19（12-3、7-6）9 新治ク

▽同1部1回戦（＝準決勝）

AOK栃木 12（6-8、6-3）11 三春台ク

松門会 19（11-6、8-8）14 甘楽農ク

▽同決勝

AOK栃木 23（15-5、8-8）13 松門会

得	【松門】			【栃木】	得
0	山浦	GK	GK	小林	0
				菊地	0
3	宮原	FP	FP	田崎	4
2	栗村			新井	3
3	小林			黒岩	3
2	萩原			佐藤	1
0	小田			山田	2
0	野田			宮田	6
0	市村			石塚	0
3	小山			小竹	1
0	斉藤			板屋	3
				小沢	0

（審・遠藤、斉藤）

23（2）7MT（1）13

▽女子第1次戦

小平OG（東京） 15-1 桜芳ク（茨城）

前橋ピジョンズ（群馬） 11-6 全神奈川

美谷ク（埼玉） 15-2 水郷ク（千葉）

石岡二高OG（茨城） 12-6 甲府二高OG（山梨）

▽同2部1回戦

全神奈川 8-5 水郷ク

桜芳ク 12-5 甲府二高OG

▽同決勝

全神奈川 7（2-4、3-1、1-0、1-0）5 桜芳ク

▽同1部1回戦（＝準決勝）

小平OG 11（4-0、7-1）1 前橋ピジョンズ

美谷ク 17（9-1、8-2）3 石岡二高OG

▽同決勝

美谷ク 7（3-4、4-1）5 小平OG

得	【小平】			【美谷】	得
0	川島	GK	GK	野口	0
0	佐藤			押野見	0
1	坂田	FP	FP	桜木	2
0	坂本			奥枝	0
3	謝花			味沢	0
0	平石			長谷川	2
0	高橋			新井	1
1	小柴			石川	0
0	瀬田			菊池	2
0	山口			青木	0
				神藤	0

（審・山内、住谷）

7（0）7MT（0）5

名古屋市が3年連続優勝

大阪市得失点差で2位

第16回5大都市体育大会は7月17、18の両日横浜で開かれハンドボール競技（第9回＝男子のみ）は横浜公園球技場で行われた。

有力実業団を主体とした名古屋市と大阪市が順当に勝ち点をあげ最終戦で対戦、得失点差で絶対優位の名古屋市が巧く引き分けに持ちこんで3年連続3回目の決勝を

飾った。

神戸 13（分）13 京都
名古屋 33—14 横浜
大阪 18—10 神戸
横浜 17—13 京都
名古屋 20—6 神戸
大阪 23—9 京都
名古屋 28—7 京都
神戸 23—13 横浜
大阪 32—15 横浜
名古屋 12（分）12 大阪

【順位】①名古屋3勝1分（得失点差54）②大阪3勝1分（39）③神戸1勝2敗1分④横浜1勝3敗⑤京都3敗1分

大同とブラザー工業 愛知リーグ

県内各系統上位2者による愛知リーグ（昭和46年度愛知選手権）はこれまでの冬季から夏季に会期を移し6月28日〜7月7日までの9日間名古屋市体育館で行われた。男子ではオリンピック候補3人を擁す大同製鋼が危気なく全勝、優勝を飾った。女子も予想どおりブラザー工業が連勝した。

▽男子リーグ
トヨタ車体（実業団） 28—9 名城ク（クラブ）
大同製鋼（実業団） 26—18 名城ク
中京大（学生） 25—14 トヨタ車体
中京大 25—11 中京ク（クラブ）
大同製鋼 21—16 名城大（学生）
名城ク 16—13 名城大
トヨタ車体 20—10 中京ク
中京大 17—8 名城大
大同製鋼 21—10 中京ク
大同製鋼 27—11 トヨタ車体
中京大 12—9 名城ク
名城ク 31—17 中京ク
名城大 15—13 トヨタ車体
名城大 22—17 中京ク
大同製鋼 23—17 中京大

【順位】①大同製鋼5戦全勝②中京大4勝1敗③トヨタ車体・名城大2勝3敗⑤名城ク1勝4敗⑥中京ク5敗

▽女子リーグ
ブラザー工業（社会人） 17—7 中京女大（学生）
中京大（学生） 10—9 名古屋ク（社会人）
ブラザー工業 7—1 名古屋ク
ブラザー工業 10—2 教員ク（社会人）
名古屋ク 6—5 教員ク
教員ク 5—4 中京大
ブラザー工業 9—3 中京大
中京女大 6—3 教員ク
中京大 4—2 中京女大
名古屋ク 6—4 中京女大

【順位】①ブラザー工業4戦全勝②中京大・名古屋ク2勝2敗④教員ク・中京女大1勝3敗

新潟で初の県選手権

▼第1回新潟県選手権（7月・柏崎工）
▽男子1回戦（1試合）
新潟明訓高 8—3 自衛隊高田
▽同準決勝
柏崎工ク 17—12 新潟明訓高
柏崎工高 19—8 柏崎ク
▽同決勝
柏崎工高 23（11—7、12—7）14 柏崎工ク
▽女子決勝
巻高 6（5—1、1—1）2 柏崎常盤ク

男子で3校が同率

▼第24回千葉県高校総体ハンドボール（6月・千葉東高）
▽男子決勝リーグ
小金 12—8 佐原
木更津 7—4 清水
佐原 17—12 清水
木更津 6—2 小金
小金 10—6 清水
佐原 8—5 木更津

【順位】①佐原（総得点33）②小金24③木更津18④清水

▽女子準々決勝
昭和学院 棄権 和洋附国府台
八千代 12—3 鶴舞
佐原女 棄権 小金
東邦 11—8 木更津
▽同準決勝
昭和学院 8—0 東邦
佐原女 8—0 八千代
▽同3位決定戦
八千代 7—5 東邦
▽同決勝
昭和学院 4（1—0、3—1）1 佐原女

教員で佐久クが勝つ

▼第20回長野県総合体育大会ハンドボール（7月・上田高）
▽一般男子1回戦（1試合）
坂城ク 19—12 上田ク
▽同準決勝
北農ク 25—7 坂城ク
鳩ケ丘ク 10—7 佐久ク
▽同決勝
北農ク 16（4—2、12—2）4 鳩ケ丘ク
▽同女子決勝
小諸商ク 14（9—1、5—3）4 佐久ク
▽高校男子1回戦（2試合）
屋代 8—6 上田
佐久 8—7 坂城
▽同準決勝
県選抜 17—7 屋代
北佐久農 8—7 佐久
▽同決勝
県選抜 26（14—0、12—2）2 北佐久農
▽同女子1回戦（2試合）
北佐久農 11—2 佐久
小諸商 6—4 上田城南
▽同準決勝
県選抜 8—7 北佐久農
小諸商 13—3 松本美須々ケ丘
▽同決勝
県選抜 19（8—3、11—2）5 松本美須々ケ丘
▽教員決勝
佐久教員 14（8—8、6—4）12 長野教員

名城ク、大同を破る

▼名古屋市民スポーツ祭ハンドボール競技（8月・名古屋）

▽一般男子決勝
名城ク　9－8　大同製鋼

▽同女子決勝リーグ順位
①ブラザー工業②愛知教員ク③名古屋ク

▽高校男子準決勝
桜　台　8－5　中　川
中　京　21－5　名　南

▽同決勝
中　京　15－4　桜　台

▽同女子準決勝
高蔵女商　8－5　愛知商
名古屋女商　10－6　桜　台

▽同決勝
名古屋女商　10－5　高蔵女商

▽中学男子決勝
笹　島　14－6　前　津

▽同女子決勝
笹　島　21－2　前　津

ブロック高校選手権　続報

第14回近畿◇7月22～24日◇和歌山県打田町◇参加男子22校、女子16校

▼男子1回戦　八幡工（滋）15－11御坊商工（和）　花園（大）16－14郡山（奈）　武庫工15－8天王寺（大）　堺工（大）14－10大谷（京）　伏見工23－6彦根東（滋）　生駒（奈）11－11県神戸商（兵）＝引き分け、抽せんで生駒の勝ち

▽同2回戦　枚方（大）8－4八幡工　塔南11－10花園　添上（奈）17－15武庫工　高島（滋）14－7那賀（和）　和歌山商（和）13－9堺工　生駒10－5笠田（和）　鳳（大）11－9伏見工　兵庫工（兵）18－10奈良（奈）

▽同準々決勝　塔南11－7枚方　添上13－7高島　和歌山商15－8生駒　鳳11－9兵庫工

▽同準決勝　添上14－9塔南　和歌山商14－8鳳

▽同決勝　和歌山商15－12添上

▼女子1回戦　粉河（和）9－1清友（大）　彦根東（滋）6－2桜井商（奈）　枚方（大）8－1明徳商（京）　甲子園（兵）12－4生駒（奈）　御坊商工（和）8－7初芝（大）　夙川12－2鴨沂（京）　添上（奈）6－5八幡商（滋）　和歌山商（和）13－5天王寺（大）

▽同準々決勝　粉河10－3彦根東　甲子園7－4枚方　夙川7－3御坊商工　和歌山商6－4添上

▽同準決勝　甲子園3－1粉河　夙川3－2和歌山商

▽同決勝　甲子園5－4夙川

男女とも初優勝。

第21回九州◇7月24～25日◇鹿児島県隼人町（詳報未着）

▽男子決勝
熊本一工（熊本）12（4－4　8－4）8　佐世保北（長崎）

▽女子決勝
島原農（長崎）11（7－4　4－3）7　熊本市立（熊本）

男女とも初優勝。

昭和46年度　ブロック高校選手権校

地区	男	女
北海道	函館有斗	函館女商
東北	湯沢	秋田和洋
関東	中大附属	国学院栃木
北信越	小杉	小松市女
東海	中京	静岡城北
近畿	県和歌山商	甲子園学院
中国	岩国工	山陽女
四国	新居浜工	土居
九州	熊本一工	島原農

茨城大の試合記録を訂正
～関東学生春季3部～

関東学連はこのほど春季リーグ戦3部の全記録を再発表した。

当初の発表は茨城大の試合記録に誤りがあり本誌にも87号（6月）88号（7月）にそのまま掲載されたもの。

【昭和46年関東学生春季3部記録】
一橋19－12東大、茨城25－13独協
武蔵工大10－7千葉工大　東海16－15千葉商大　千葉商大17－11武蔵工大　東海16－10東大　一橋18－16茨城　千葉工大19－14独協　武蔵工大20－12東大　一橋14（分）14千葉工大　東海23－15茨城　千葉商大15－12独協　千葉工大16－8東海　独協23－19東大　一橋18－16千葉商大　武蔵工大18－14茨城　武蔵工大19－12独協　一橋16－12東海　東大12（分）12千葉商大　千葉工大17－4茨城　茨城23－10千葉商大　武蔵工大18－12一橋　東海22－16独協　千葉工大15－11東大　一橋19－18独協　東海14－10武蔵工大　千葉工大15－9千葉商大　東大23－17茨城

▽1位決定戦　千葉工大22－16一橋

【順位】①千葉工大②一橋③武蔵工大④東海⑤千葉商科大⑥茨城大2勝5敗（得114失122）⑦東大⑧独協

▽3・4部入れ替え戦　都立大（4部）19－14独協（3部）

編集後記

インターハイは男女とも初優勝校が栄冠を握った本年から、日程が大巾に変更され、夏の総合が冬季に移ったが、実業団、教職員、高校と全国大会が夏に行なわれた。

いよいよ秋、スウェーデンとの親善試合、オリンピック予選と斯界のこれまでの努力の結果がはっきりと出る日が近ずいてきた。

オリンピック予選に出るのは、全日本男子チームだけではない。国内のハンドボールファン全員が予選を勝ちぬくつもりで一丸になってことにあたって欲しい。

本誌が手許に届く頃には、オリンピック予選のキップの前売りが始まっている頃である。一人でも多くのファンが予選会場につめかけ会場を満席にし、盛大な声援を送ってほしいものだ。

今夏、多くの地方から中学校大会の記録が送られてきています。これは従来にないことで、たいへん喜ばしいことです。現在整理中で、次号に掲載を予定していますこれからもどしどしお送り下さい。次号はスウェーデン親善試合の特集とします。　（T・F）

おことわり　本誌〆切り後スウェーデン協会から来日メンバーの変更があったため、3頁の顔写真に掲載されていない選手がいます。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第九十号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
昭和四十六年八月二十五日印刷　昭和四十六年九月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一-一-一
電話　大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価百五十円（年間購読11回・千二百円）